▼日程第1 一般質問

〔今泉藤一郎議長〕 日程第1 これより前日に引き続き一般質問を行います。6番議員 樋渡徹君。

〔6番 樋渡徹君〕 皆さんおはようございます。ただ今、議長の承認を得ましたので通告に従い、一般質問をさせていただきます。本日、私の質問は、質問事項として、1項目目、有田町の将来展望。2項目として農業問題を質問したいと思います。まず、有田町の将来展望についてですが、昨日の町長の所信表明で、2期目に向け10年後、50年後を見据えたまちづくりを目指すとのことのお言葉がございましたが、私はもう少し長いスパンで50年、100年先を見据えた有田町の将来についてということを一応念頭に、長期計画目標という意味で、質問事項欄に、有田町の将来展望と表記をいたしました。展望というのはですね、意味合いとしては、専門家が将来を見据えて考えていることと捉えて、まず人口問題について、その計画について質問をしたいと思います。過疎地域持続的発展の支援に関する特別措置法が新たに施行されたことにより、旧有田町地域が過疎地域として指定されました。有田町では同法の規定に基づき、有田町過疎地域持続的発展計画を策定され、総合的かつ計画的な対策を実施し、持続的発展を図り、旧有田町地域が非過疎地域となることを目指すとなっております。計画期間として昨年、4月1日から令和8年3月31日までの5ヶ年となっているので、あと4年間残っているということになります。基本方針として、最大の特徴である、焼き物の町であることを生かした産業の振興、仕事づくりですね、最大の資源である人への支援の充実、結婚、出産、子育て応援、ということで、人を生かした地域づくり、地域、活力、創造、それらの相乗効果も高めながら地域内外の人が行ってみたい、住みたいと思えるまちづくり、移住とか交流促進に取り組むとなっております。このことについて進捗は今のようになっていますでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕 進捗状況ですけど、昨年度作成したばかりでございますので、今から取り掛かっているという状況であります。

〔6番 樋渡徹君〕 町が公開している本年4月時点での有田町年齢別人口統計表というのがホームページで出ているわけですけど。0歳児ですね、0歳児というのは、これは4月時点での話です。で、昨年の5月から本年の4月までに誕生された人数ですね、人数は現在110人となっております。1歳児が106人ですね。2歳児ですね135人、3歳児117人と減少、低迷傾向が進んでいるような状況であります。乳幼児の人口構成から見て更なる人口減少が危惧される状況ではないかと思います。このことをちょっと私、映像を送るのを忘れていたんですけども、こんな

感じですね、グラフで表すと、このような感じになっているんですけど、こちら側が0歳児なんですけど、これどんどんどんどん下がっております。このことを見て、この1年間に誕生された、この110人のお子さんの東地区と西地区が何人ぐらいの構成になっているかっていうのをちょっと住民課にお尋ねをしまして、調べてもらったんですけど、110人のうちの62人が東地区、それから西地区が48人であるとのことでした。これを見ますと、西地区の過疎化が危惧されると思われまます。さらにですね、このグラフを見ますと、18歳から40歳弱ぐらいまでが落ち込んでおって、これは18歳になると皆さん高校卒業して大学に進学されたり、就職されたりするということで、町外への転出が起きるわけですけども、その時点からですね、40歳ぐらいまではほとんど有田町内に戻って来られないのかなと、そういうのを表しているのかなというふうには思いますけども、仮に企業が有田町に進出してきたとしても働き盛りの労働人口の確保が困難ではないかというところが見て取れるわけです。2006年の3月1日に旧有田町と旧西有田町が合併し、新しい有田町が誕生しましたが、過疎化の問題もいずれは旧西有田町も同様になるんではないかと思われまますので、これからのこの際の計画ですね、計画は東地区、西地区には関係なく再生の計画を進めるべきではないかと思っております。そこで(1)ですけど、定住化促進対策について、過去の旧両町による居住用の団地の提供があっているわけですけども、舞原、代々木、黒川、天神原ですね、これが旧西有田町の方ですけど、さらに有田町の方は赤坂、中樽、それからタウンQ等があるわけですけども、民営、この分譲に対してですね、民営公営を問わず、団地の分譲はいずれも完売ということで成功ではなかったかと思っております。3月に県道伊万里・有田線、通称セラミックロードの一部が開通となりました。沿線の二ノ瀬地区、山谷牧地区、広瀬地区に渡って住んでみたいと思われる地区が点在すると私は見ております。広報の5月号の表紙ですね、皆さんご覧になったと思っておりますけども、これはドローンで撮ったんでしょうか、ちょっとよくわかりませんが、このようなのが表紙にありました。非常に視界が開けてやっぱりこの辺りに住みたいというふうに、ここの道路を通行された方は思われるんじゃないかというふうに私感じましたので、ちょっと提案になるんですけども、伊万里方面への移動も便利になってさらに共立病院から先の道路が開通することによって勤務といいますか、唐津方面までも通勤範囲内に入るのではないかなというふうなふうにちょっと感じております。SUMCOですね新規採用社員を600人採用するという発表があっているわけですが、伊万里地区にはもう既に大手住宅会社ですね、何とかハウスとか、何々住宅等々が社員寮の新築要望を受け、建築が進んでいると聞いております。いずれそういう借家から持ち家希望が出ると思われまますけども、新規団地をこの道路界

隈というか、道路に近いところに計画してはどうかというふうに思うわけですが、民間任せより行政の協力があつた方がスムーズにいくと感じております。具体的に宅地としての販売後は固定資産や住民税、さらに消費税とか、たばこ税とか、あと所得税とかを見込めば将来的に新規、新しい団地を計画しても多少というか、多少少なくはないと思いますけども、この投資も町として十分人口増や税収増のメリットがあると思いますけども、この提案についてはどのように受け止められますでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕議員が仰るとおり、町の人口で見ればですね、国勢調査で見た時に、平成7年に2万2,818名あつた人口がですね、平成22年には2万929人、令和2年では1万9,010人と減少しております。特に大山地区に関しましては、平成22年から落ち込みが非常に激しくて4,711人あつたのが、令和2年には4,077人と、634人と減少となっております。このような状況でございますので、大山地区の方に何らかの人口増の対策は必要とは考えますが、例えば宅地分譲となりますと土地の問題が出てきます。こういった場合に即効性のある分は町有地の活用というのが考えられますが、現状では利便性の良い町有地が大山地区の方にはないため、現時点で宅地分譲を早急にすることとはなかなか難しいというふうに考えております。

〔6番 樋渡徹君〕先ほど地域をちょっと申し上げましたけども、旧大山地区と山谷地区ですね、こちらには団地として開発されたところはないんですよね。どういう理由かは分かりませんが、そういう実情はあります。そこで(2)の雇用の拡大というところに移りたいと思いますけども、2006年に旧有田町と西有田町が合併して新しい有田町となりましたけども。当時よりの南原工業用地の方ですね、用地、それから南部工業団地への企業進出も進んでいないわけですが、南原工業用地については有田町のホームページにも掲載されておりますけども、いつも話題になっている、話題になっているというか、説明されている、取り付け道路については記載は一切されていない状況です。そこで町ホームページの工業用地のご紹介という欄では、南原工業用地は工業用地(有田中部小学校移転造成跡地)となっているわけですね。現在、DX推進やWeb使用等の情報発信というのは必要不可欠だと思うわけですが、こういう表記がなかなか例えば現在は南原工業用地と呼んでいるわけですが、こういうのがあまり更新されないというのが取付道路が未整備のために消極的というか、そういう表示となっているのかどうか、ちょっとその点はお尋ねしたいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕南原工業用地につきましては、ここは元々有田中部小学校の建設予定地というところで、そもそも文教関係で開発された造成地となっております。そこを企業誘致ができるような形で都市計画等の変更も今行っている状況でございます。ホームページの方はですねなかなか新しい情報が出てこない関係もありまして、なかなか更新が進んでいないというのが現状であります。

〔6番 樋渡徹君〕世の中にはですね、この産業系というか、会社、企業ですね、企業は事務系を専門にやっている会社はもちろんありますけども、ファブレスとって、設計専門で、製造工場を持たない企業もいっぱいあるわけですね。設計だけして製造を専門にやっているところに製造を依頼して製品を開発するというか、新しい製品を出すとか、そういう会社ですけども、道路はそれほどこだわらなくてですね、現状の道路で大型の輸送車種が出入りする必要のない企業の誘致も可能ではないかと思っておりますけども、このことについてはいかがですか。道路が、広い道路がないとダメでしょうかね。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕確かにファブレス関係の設計等を専門にされるとか、企画をされる企業等の誘致をする分には可能かと思っておりますけど、そういった場合にですね、あそこの面積が1段2段と分かれておりまして、合計で1.8ha程ございまして、それでその規模に見合う企業さんが来てくれるかというところで若干問題があるのかなというふうに思います。

〔6番 樋渡徹君〕伊万里市で、あそこはなんていうところだったか忘れたんですけど、市役所からずっと下りて行って、陸橋を越えた右側のパチンコ屋の跡のところですね、伊万里市が保障をするからといって民間が、民間に建てさせた事務所があるんですけども、そこはやっぱりIT関係の会社ですぐ一杯になっているというふうに聞いてます。だからああいうなんていうかな、自分たちで社屋も建ててみたいなことだけを考えなくても、そういうことでも企業を誘致することはいいんじゃないかと私は思っているんですけど、そのことについてはいかがですか。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕確かにですね、議員の仰るとおり伊万里市の方ではそういった形でIT企業を入居させるビルの方との関係でIT企業が進出している部分があるかと思っております。有田町の方でも今各民間の空き店舗等にですね、IT企業等の進出もあっておりますので、そういった形ではちょっとやり方は違いますが、少しずつでもですね一応進めているという状況だと思ってお

ります。

〔6番 樋渡徹君〕空き家対策ということでされているのかなというふうに思うんですけど、どうですか、一般の企業は空き家だったところをリフォームしてというような考えをされるような会社はあまり私はないんじゃないかという気がしているんですね。ちょっとその辺は分かりませんが。その次にですね、南部工業団地については有田の方、有田町のホームページには記載もないわけですね。こちらの方は佐賀県の方にも丸投げの形態なのかなと思ったりするものんですけど。オーダーメイド方式ということでやるよということでスタートしたと思うんですけど。山林を開発するに40億ぐらいの費用がかかって佐賀県と有田町は折半で半額を負担しなくちゃいけないという説明は以前にもあったんですけど。今後の計画についてはどのように考えていらっしゃいますか。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕ちょっと繰り返しの答弁になりますけど、有田南部工業団地はですね県と新産業集積エリア事業として、佐賀県と町が共同で大型の工業団地を造成をして雇用の創出を図るという目的で今企業誘致等を行っているようなところになります。そういう状況でございますので、県と連携しながら、ちょっと今は有田町に関心を示して頂いている企業に対して情報の提供等を積極的に行っているという状況にあります。

〔6番 樋渡徹君〕今回、3月に開通したセラミックロードのちょうどあそこは、

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕造成費に関してですけど、一応40億ではないので、そこはちょっと訂正の方お願いしたいと思います。

〔6番 樋渡徹君〕その件についてちょっとお尋ねというか、40億じゃないかも分かりませんが、今回、開通したセラミックロードの一番手前かわの取り付け道路のところですね、あそこは山を崩しましたね、崩して、道路を作ったわけですけど、あそここのところはちょっと岩盤ですね、非常に朝早くからカタカタカタカタって石を砕く音が長期間続いて住民の方からも苦情が出たと思うんですけど、ひょっとしたら今度の南部工業団地の方も造成する時に、そういう岩だったら先程ちょっと40億と申しましたけど、それがもっとさらにお金がかかったりするのかなという危惧もちょっとするわけですけど。まだ具体的な話になってないのでちょっと分からないんですけどね。それはちょっと置いておきまして、(3)の地方選挙のことについてちょっとお尋ねしたいと思います。投票率が低下傾向にある中、選挙年齢が18歳に引き下げられました。若い世

代にも選挙に対する関心を持たせ、さらに将来、参政、政治に参加するという参政ですね。参政する若者が出るよう以前行われた子ども議会の再開の計画がないかをお尋ねをいたします。

〔今泉藤一郎議長〕教育長。

〔栗山教育長〕議員さんが仰られたように成人年齢が18歳ということになって、今まで以上に主権者教育とか、キャリア教育の重要性が言われているというふうに認識をしております。子どもたちの政治への関心とか、自分が住んでいる地域の将来のことを考えて社会参画への態度や意欲を培っていくということは非常に大事なことだというふうに思っております。そういうことを子どもたちが発表するような場を設定するというは大変有意義なことだというふうに思っております。ただ、子ども議会は一部の子どもたちがですね、参加するという形になりますので、できれば大勢の子どもたちが意見交流とかをできるような例えば出前授業みたいなですね、そういう形のものもあるのではないかなというふうに思っておりますので、議員さん方が学校の方に行かれて例えば2年生とか、3年生全員と意見交流をされるような形もあるのではないかなという事は思っております。今申しましたように子ども議会を設定していくためには町、議会、教育委員会、この三者が同じ方向をしっかりと見ながら設定していくということが大事だと思いますので、そういうことを今後また、議員さん方からの要望等の高く出てくれば考えていくことになるのかなというふうに思っております。

〔6番 樋渡徹君〕学校の先生方もですね、議会をやるとすると準備とかもいろいろ大変だろうと思っておりますので、とりあえずではないですが、これ傍聴ということが出来ますね、中学校を卒業するまでに一度でもいいですから傍聴でもしてもらってですね、あと、議会が終わった後に傍聴した児童や生徒たちからどうだったねとか、議員と執行部との交流といいますか、そういうことでもいいかなとはちょっと思っています。そっちの方がなんていうか、先生方の、学校側の労力はうんと少ないんじゃないかと思えますけど、そのことについてはいかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕教育長。

〔栗山教育長〕今、議員さんから提案して頂いた傍聴ということはちょっと私も考えておりませんが、そういう形も非常に子どもたちにとってはインパクトのあることじゃないのかなというふうには思いますので、学校側にこういう意見等が出ているというふうなことは申し伝えまして、実現できればいいなというふうに私は思っております。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕議員ご提案の傍聴というお話ですけども、私も子ども議会を自分の議員の時に発案して

動いた手前、本当に議会がしっかりまとまらないといけないのと、執行部と、あと学校現場の話なので、やはり今議員が仰ったように傍聴に1回来るという機会を作る方がより政治に参加するという意識は芽生えるのかなと思っております。子ども議会での議員だった子が今うちの役場で職員として働いているということもありますので、そういった町政に興味を持つということでは議員のご提案大変ありがたい話だと思っております。

〔6番 樋渡徹君〕時間が無くなって最後までいけるかどうかわかりませんが、大きい問題の農業問題の方に移りたいと思います。ちょっと順番を変えまして、(4)の方からいきたいと思うんですけど、農地傾斜面の除草作業改善対策ということで、農業者が高齢化して農地の斜面ですね、一般に法面といわれますけども、除草作業が困難になっております。対策として斜面をコンクリートで固めたり、防除シートを張るなどの対策をなされているわけですけども。数年前より、現議員さんからも提案があったんですけど、草丈が伸びない、センチピードグラスという、これを種を吹き付けて背丈が30センチぐらいまでしか伸びないんですけど、年に2回ぐらい草刈りをすれば十分というようなことが提案されておりましたけども、この実施状況はどのようになっていますでしょうか。北ノ川内以外に取り組みされた集落も既にございますか。

〔今泉藤一郎議長〕農林課長。

〔井筒農林課長〕センチピードグラスの吹付でございますけれども、実施状況ということでございますが、基本役場の方、農林課の方で実施というのはやっておりません。北ノ川内の畦畔管理部会というところが吹き付け車輛を有しておられまして、他の地区からいろいろ依頼を受けてやっていらっしゃるようなところでございます。有田町としましては、町道ですね、町道の傾斜面について、建設課の方になりますけれども、これも北ノ川内の畦畔管理部会の方に依頼をされて吹き付けを行っていらっしゃるという状況でございます。

〔6番 樋渡徹君〕センチピードグラスというのは、ほとんどの植物に対して生育、根から、なんか他の雑草が生育するのを阻止するような分泌物を出して成長を抑えるという働きがあるんですけども、またかつ特定の除草剤に負けないような性質もあるわけですけども、カヤと同質であり、カヤには効かないわけですね。だからこのカヤを除去する手間は結構大変だと聞いております。これもちょっと私提案なんですけど、庁舎の南側に岳の棚田を模した石垣がずっとございますね。あそこを多分、芝を植えて棚田に稲がちょうど田植えした後みたいな状況を作り出すというような感じで設計をされたと思うんですけども、ここにこのセンチピードグラスを植えたらですね、いつも稲が茂っているような感じがいていいんじゃないかと。背丈も2~30センチしか伸びない

いということですので、これを検討されてはいかがかなと思えました。このことについて、もうちょっと時間が1分ぐらいしかないのでよろしかったら答弁をお願いします。

〔今泉藤一郎議長〕 総務課長。

〔木寺総務課長〕 庁舎南側の階段状のところですけども、定期的に除草作業を行いながら現在管理を行っています。あそこがスプリンクラー等が設置されてて、その花壇といいますか、芝生を管理していくような状態で今まで管理をしてきておりますけど、今議員が仰ったような別の使い方といいますか、維持管理の仕方につきましては検討させて頂きたいというふうに思います。

〔6番 樋渡徹君〕 時間がまいりましたのであとは質問しきれなかった分は、また9月にでもお尋ねをしたいと思えます。これを持ちまして私の質問を終わります。ありがとうございました。

〔今泉藤一郎議長〕 6番議員 樋渡徹君の一般質問が終わりました。10分間休憩いたします。再開10時40分といたします。

【休憩10：31】

【再開10：40】

〔今泉藤一郎議長〕 再開いたします。15番議員 松尾文則君。

〔15番 松尾文則君〕 皆さんおはようございます。ただ今、議長の許可を得ましたので15番議員 松尾文則、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。10年ぶりの質問でございます。執行部の皆様よろしくお願ひいたします。今回の私の質問は、1. 今後4年間の町長の目標。2. 人口増に対する政策について。3. 南部工業団地造成事業についてお伺ひいたします。1. 今後4年間の町長の目標ということで、選挙時の町政報告特別号を読まさせていただきました。町政スタート後の後半は、コロナウイルス感染の影響で、コロナ対応として予防接種、補助金対応、企業への手当など大変な2年数ヶ月であったとお察しいたします。そのような状況の中でも企業立地2件、IT企業進出協定5件、民間企業・大学等の進出協定10件と素晴らしい実績を作られたと思っております。町長のお言葉をお借りすれば、種まきの4年間で終了し、これからは収穫の時のお話があったと思えますが、これらの協定実績は今までになかったトップの行動として評価いたしておりますし、今期にこれらの協定から町の発展への果実が収穫されるものと期待しております。以上の件で、今後の進め方、どのような成果を設けようとしているのか、町長にお伺ひいたします。

〔今泉藤一郎議長〕 町長。

〔松尾町長〕今、議員から質問されましたことについてお答えいたします。やはり前期4年間の後半2年間は仰ったとおり、コロナという未曾有の危機的状況の中で、いろんな手探りの中で、議会の協力を得ながら進めてまいることができました。その中で何個かの連携協定なども結べたのは、やはり有田町というネームブランドがあってからというのを強く感じております。これからはウイズコロナ、ポストコロナということで緩やかに時代が動いていくと思いますが、その中でやはり1,741自治体ある中の競争があります。この2期4年間の中で、その競争がすごく激しくなっていて淘汰されていくんじゃないかなと思っておりますので、格好よく言えば「Think global, Act local」頭の中は常に海外、世界を目指しながらしっかりと地元で動いていくということが大事な時代になっていくんじゃないかなと思っております。今後も私も1期目の時から有田町のトップセールスマンとして動いてきたつもりでありますので、まずトップセールスマンとして有田町のファンもドンドン作っていくこと。そのことによって関係人口も増えていくかなと思っております。やはり課題である南部工業団地等についても企業誘致等、積極的に進めていきたいと思っておりますし、DX（デジタルトランスフォーメーション）も、民間も、行政も、町全体としても進めていきたいなと思っております。組織力の強化であったり、外部人材、民間の活用など、いろんなところの力を組みながらやはり今後もやっていきたいなと思っております。有田町再生に向けてということでもありますので、しっかりとチーム有田それぞれを作って頂いて、やはりオール有田でまちづくりを進めていきたいなと思っております。しっかりと議会とも議論をしながら強い有田町になるようこれからも動いて働きたいと思っております。

〔15番 松尾文則君〕私の質問がちょっと悪かったですけども、大学の協定とか、そういうやつ次回にまたお伺いしたいと思いますので、よろしくお願ひします。昨日、所信表明をお聞きいたしました。それを参考にしまして質問させていただきます。ふるさと納税が14億円までアップしたということで、これからは、このふるさと納税が安定した財源確保の重要事項となると思ってます。この税収アップに向けて町長の今後の考えをお聞きいたします。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕議員ご質問の、ふるさと納税に関しましてですが、ふるさと納税も今商工会議所さんに委託をしたような形を取っておりますが、やはりそれまでは役場は役場、商工会議所は商工会議所で、委託先は委託先みたいな感じになっておりましたので、定例的に会議をしてしっかりとどういものが売れるのか、世の中どういうトレンドなのかというのを現状把握してもらうように指示も出しております。やはりふるさと納税もこのスタイルがいつまで続くのかというのもちよ

っと疑問なところもありますので、これに完全に寄ってしまうとちょっと危険でもあると思うので、ふるさと納税の企業版だったり、ガバメントクラウドファンディングなりもやっていきたいと思えます。今、議員が先ほど前段で質問された連携協定の中にも、そういった企業様と一緒にあってあるプロジェクトを起こす時にガバメントクラウドファンディングを起こすなり、ふるさと納税企業版なりというのをドンドン取り入れていくことによって、町の財産が少ない分、そういう連携協定とかを活かしながらふるさと納税をクローズアップしていくような仕組みを今考えているところであります。

〔15番 松尾文則君〕ふるさと納税、各自治体の競争がですね、激化すると思えます。お隣の波佐見町、焼き物のふるさと納税の占める割合が大きいということで、売上もうちより大きいということでございますので、その辺も参考にしながら、ふるさと納税のアップに努めて頂きたいと思えます。よろしく願いいたします。続きまして、2. 人口増に対する政策についてということでございます。少子高齢化の時代が進行する中、1年の出生数は1950年、第一次ベビーブームでは270万人、1975年第二次ベビーブームでは200万人でありました。それ以降200万人を割り込み減少し続けております。1984年に150万人を割り込み、現在81万人と減少する中で、人口を維持するには2.07人の出生率が必要とのデータも出ているところでございます。5月7日の佐賀新聞に、佐賀県の人口80万人割れ戦後初めてということで、年度内にも見出しが出されました。最新の4月1日現在の推計人口は80万678人、年度内にも70万人台に入る可能性が高いということでございます。一方、有田町の人口は5月末で1,910人と、2006年、平成18年合併時2万2,268人から3,258人の減少となっているのが現状でございます。また、現在、有田町の出生数は先ほどもありましたが110名ほどになり、100名を切るような状況でもございます。人口減少問題は、日本国の喫緊の問題であると認識しておりますが、そのような中でも子育て支援などの自治体の施策において人口を増やしている自治体もございますので、町の魅力を発信しながら有田町に住んで頂くようなまちづくりをお願いする気持ちで質問させて頂きます。まず、過疎地域自立促進特別法でございます。過疎地域指定となった有田でございますが、これは過疎地域自立促進特別法といいまして、昭和45年より5次に渡り議員立法として制定されております。私が全国会議長会会長時に時限立法でありました過疎法の4次から5次の延長を、地方6団体でお願いして延長した法律であり、特に過疎が激しく、財政の規模が厳しい自治体におきまして交付税措置が高く有利な法律でございます。このような好条件の措置法を有効に活用し、人口増につながなければならないと考え、この過疎

法についてお聞きします。過疎法は時限立法で10年ということで、これは途中打ち切られることはないということで認識してよろしいでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕この法律自体が10年間となっておりますので、途中の打ち切り等はないと思っております。

〔15番 松尾文則君〕この過疎債ですけれども、その流れ、まっすぐ町に来ますか、県を通してか、その辺の流れを簡単に説明をお願いいたします。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕過疎対策事業債になりますけど、これは基本的に総務大臣が各都道府県に同意等の予定額の配分を行い、各都道府県で市町ごとに、同意、配分を行うのでという形になります。

〔15番 松尾文則君〕今、計画中ということをお聞きしましたが、有田町で年間どれくらいのこの過疎債の使用を計画されておられますか。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕計画というか、今、過疎債の使用に関しては、具体的に何年にいくら使うところの計画まで至っていない状況でございますが、例えば令和3年度ですね、昨年度は町道改良南原原宿線とか、無電柱化の方に7,020万円を過疎債として充当しております。今年度は令和4年度になりますけど、町道改良、あと有田中部小学校の空調の大規模改修とか、赤坂球場のLED化等、1億9,300万円程を要望しているという状況になります。

〔15番 松尾文則君〕この過疎債を有効に活用することによって過疎脱却を目指した施策をお願いして、次の質問にまいります。定住移住政策についてでございます。平成21年にスタートし、14年目を迎えておると思っております。令和3年は含まれませんが、持ち家奨励金で1,364名、転入奨励金で543人、合計1,907人移住して頂いております。これまで3億8,300万円の奨励金を出してきております。移住者に占める転入者の割合が平均で31.2%でございます。この政策につきましては、令和2年の議会におきまして減額の方針が示されましたが、議会側からの修正案の提案において増額された経緯がございます。町長として、この政策についての見解をお聞きしたいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今、議員のご質問ですが、移住定住の施策として行っていることは私は効果があっ

らと思っております。議会の方から、この間は修正のご意見等も頂きながら、やはり時の情勢とか、いろんなことを鑑みながら今後も続けていくべき政策ではないかなと思っております。

〔15番 松尾文則君〕これが財政の圧迫になってはいけないと思っておりますが、減少の歯止めにはなっていると私は認識をしております。昨日の所信表明演説でも切れ目ない支援を行うということで申されておりますので、今後もこの継続をお願いいたしたいと思っております。よろしいでしょうか。続きまして、PFIについて（プライベートファイナンスイニシアチブ）公共サービスの提供に際し、公共施設が必要な場合に従来のように公共が直接施設を整備せずに、民間資金を利用して民間に施設整備と公共サービスの提供を委ねる手法でございます。県内では、みやき町がアパート、太良町が戸建ての建設を導入し成功していると思っております。みやき町におきましては、前町長から直接お話を聞く機会がございましたし、太良町には昨年10月に県の議長会視察で視察に行きまして町長から直接お話もして頂きました。現在、特に内山地区での人口減少が進行しており深刻でございます。先に建設されました有田小学校に関しましては、議会内でも小学校を建設するのであればやむを得ないが、何らかの人口を増やす政策を提案としてお願いしたという経緯がございますが、現在何も行われていないというのが現状ではないかと思っております。PFIの導入によりまして、大型の住宅施設を建て、その1階にはコンビニでも設ければ買い物の問題、昨日言われましたATMの設置問題等も解決もできますし、人口増政策には一番早い解決方法になると思っております。また、相手もあることなので軽々には言えないんですけども、企業さんの土地も泉山地区には空いているようでございます。今後の南部工業団地造成と絡めて検討していけばプラスの方向にいくと思っております。この件につきまして、まずは研究チームを編成し、導入に向け検討してみてもどうかと思っておりますが、町長いかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕現在ですね、有田町での定住を目的にした住宅でいきますと、南原地区の方に定住促進住宅サンコーポラス有田の方がございます。ただ、内山地区にはですね、このような定住を支援するような住宅は今のところはないような状況でございます。国勢調査もですね、地区別の人口の推移を見てもですね、内山地区の方は、平成7年に4,332人あった人口が最新の令和2年の国勢調査では2,556人と大幅に減少しております。この状況を解決していくには当然人口増の対策が必要かと思っております。昨年度策定しました有田内山グランドデザインでは、こういった人口が減少していく内山地区を再生していく方向性を示しておりますので、この計画に基づいて方向性に沿った形での住宅整備についても今後庁内で検討していく必要があると思っております。

います。またその手法についてもPFI方式を含めた上で検討していくという形になると思います。

〔15番 松尾文則君〕ありがとうございます。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今、課長が申したとおり対応していきたいなと思っております。やはり内山グランドデザインの中で、観光という面もありますけど、住むというか、暮らすということも一つのキーワードでありますので、住むということに関してちょっと内山地区ではなかなかアプローチができておりませんので、内山グランドデザインが動く時に一緒にいろいろ今ご提案頂いたようなPFIによる住宅の構想とか、そんなこともいろいろ考えていきたいと思います。まさにその研究委員会等も作っていく必要があるのかなと思っておりますので、今からそれも研究していきたいと思えます。

〔15番 松尾文則君〕私が視察研修しました首長さんは自分の施策が失敗したということは言われませんので、その辺もまず検討して頂いてから入るということをお願いしたいと思います。一つの施策を実行するにはブランディングから2年間は要すると考えられますので早く取り組まなければなりません。早急な対応をお願いして質問を終わります。続きまして、学校給食無償化についてでございます。学校給食無償化は4年前の町長の公約であったと思いますが、今回は触れられておられません。県内では、私が調べたところでは、太良町、上峰町では実行しておると思いますが、ほかの自治体ではいかがかお聞きいたします。

〔今泉藤一郎議長〕学校教育課長。

〔福山学校教育課長〕お答えしたいと思います。県内での何かしらの学校給食費ですね、補助等を実施している市町につきましては、11市町でございます。その内訳の大まかな区分を申しますと、全額補助をしているところが9市町、ただですね、条件をしているところもございまして、第4子以降を対象にしたところが1市、小学校6年生と中学3年生を対象にしたところのみを補助にしているところが2市町でございます。また、定額ということでされているところが2市町あるというふうな状況でございます。

〔15番 松尾文則君〕ありがとうございます。私が調べた実績によりますと九州の市町村で30%が補助制度を行っておりまして、今お聞きしましたら県内では半数以上ということで、佐賀県の方はだいぶ進んでいるんじゃないかなと思えました。この一般質問を提出した後に、佐賀新聞に、佐賀市が学校給食で使用する食材が高騰しておるので、物価上昇分を補助する議案を上程する予

定という記事が載りました。ほか、有田町も同様の関連予算を提案する見通しと記事が掲載されておりました。今議会に上程されております700万円がこの分と考えてよろしいですか。お聞きいたします。

〔今泉藤一郎議長〕学校教育課長。

〔福山学校教育課長〕食材等の物価の上昇は、ここ数年上がってきておまして、最近さらなる物価高とあいまってさらに上昇傾向にあるのかなというふうに思います。このような中、国が物価高騰への緊急対策といたしまして、地方創生臨時交付金が拡充されまして、生活支援等の対応分が創設されたというふうになっております。これらの交付金を活用いたしまして給食費の物価高への負担軽減といたしまして、今議会に補正予算といたしまして750万円を上程させて頂いているところでございます。

〔15番 松尾文則君〕ありがとうございます。後出しになりましたけども、このことにつきまして、食料の値上げが進み、値上げ分を自治体が補填すべきということをお願いしようと思ったところでございましたので、本当タイムリーでありがたく思っております。この給食費はお聞きしようと思いついてから一般財源からではありますが国からの補助があるということでございますので、内腹とか、一般会計は傷んでおりません。そうであれば財政的に余力は少し残っていると思いますので、厳しいながらもいくらかなりとも学校給食の無償化が一番ですけども7,500万円という、がかかるという前の議会でも教育長から答弁も頂いておりますし、その辺は厳しい問題ではありますが、私どもは気持ちとしては全額の給食費無償化をお願いしたいということでありますので、この件について町長ご見解をお願いいたします。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕高騰の件に関しましては、我々もすぐ早急に対応できて良かったなと思っております。

やはり議員が申されておるように無償化という話もあるんですけども、やはり完全には難しいかもしれないので、例えば、第3子以降とか、いろんなやり方はあると思うので、そこを教育委員会としっかりと連携しながらやっていければなと思っております。

〔15番 松尾文則君〕今の答弁を聞きまして、0ではないが可能性はあるということで、いくらかなりともですね前向きにいくのを期待して、この質問を終わりたいと思います。続きまして、南部工業団地造成についてでございます。用地買収から7年を経過いたしました。現在の南部工業団地造成事業については手付かずの状態でございます。先の見えない状況でございますので、この件については、やるかやらないか決断の時が来ていると思いますし、人口増、雇用面からも進め

るべき事案であると私は認識をしております。これまでの経緯を簡単に時系列的に説明をまずお願いしてよろしいですか。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕南部工業団地、佐賀県の新産業集積エリア事業になりますけど、これまでの経緯になりますが、この事業は平成19年度に創設され、同年度に有田町からの事業申請に基づき、佐賀県より新産業エリア事業候補地として決定をいたしております。平成20年度に、事業設計、基本設計、地質調査、測量調査、環境調査を行い、平成21年度から、事業の詳細設計、実施設計、測量設計、測量調査、道路調査、地質解析調査と、あとは地元地区への地権者等の説明会を開催しております。平成22年から平成23年度にかけて、開発行為申請の同意を得るための個別協議を行い、平成24年度から用地買収を開始しております。平成25年度に、開発行為許可申請、林地開発届出と用地買収を継続して行い、平成26年度に、用地買収にかかる個別協議及び契約が完了しております。平成27年度に、開発行為の許可、それと林地開発協議の方も完了しております。その後、平成30年度に、県企業立地課との協議によりオーダーメイド方式も可能という形で現在に至っているという状況でございます。

〔15番 松尾文則君〕ありがとうございました。先程の質問の中で実施設計は終わっているという事で説明がございましたが、これが終わるとしたら、やる気があればすぐ発注できるというふうな認識でよろしいでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕実施設計の方終わっております。ただ、若干、実施設計からですね年数が経過しておりますので、当然単価等の見直し等がありますので、その辺りを反映した上での発注という形になると思います。実施する場合はですね。

〔15番 松尾文則君〕私ども総務委員会です、数年前に佐賀県の東京事務所に企業誘致のお願いにもまいりました。その時に言われたことが忘れられないんですけども、オーダーメイド方式によることではほとんど無理ですと。まずは拓いてじゃないと相手は見つかりませんというのを聞きして、他の議員さんずっと訴えてこられました。やっぱりそういう時期が来ていると思います。そういうことを踏まえて、町長の、この南部工業団地造成に関する見解を求めたいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今、議員ご指摘のオーダーメイド方式でありますけども、これは以前、県の方が考えて

頂いた名前であって、当時は全く動かなかったということでもあります。私も動こうと思いましたがコロナで状況がいろんなことがありまして動けなかったというのがありますが、やはり今議会でもお話したように今ウイズコロナで世の中動き出しています。多くのIT系の経営者とか、いろんな経営者の方とお話していると世の中動き出しているなど、今ウクライナ情勢もあり、特に国内に戻ってきているよという話も多く頂きます。東京事務所の所長とも意見交換させて頂きましたが、やはりそのような流れが来てますので、県との協議でもありますけども、オーダーメイド方式という名前はありますけども、やはり私は動いていく時に来ているなと思ってますので、その時は県としっかりと協議をしながらやっていかなければいけないなと思っておりませんが、もう良い波が来ているのかなというのは本当に肌感覚としてあります。

[15番 松尾文則君] 昨日の所信表明の中で、工業団地を建設し、雇用につなげるということがございまして、町長に昨日直接聞いたら、それほどこのことですかと、南部工業団地のことですかということでお聞きもしておりますので、いろいろな財政状況もございしますが、昨日の言葉でございました「挑戦なくして伝統はない」という町長の所信を貫かれまして、善処されまして、以上の政策の成功で、有田町の人口が増え、活気ある有田になることを期待いたしまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

[今泉藤一郎議長] 15番議員 松尾文則君の一般質問が終わりました。10分間休憩いたします。
再開11時20分といたします。

【休憩11:09】

【再開11:20】

[今泉藤一郎議長] 再開いたします。2番議員 岩尾匡君。

[2番 岩尾匡君] ただ今、議長の許可を頂きましたので、2番議員 岩尾匡、一般質問を始めさせて頂きます。今回初めて議員職を拝命いたしまして、また、30分という時間の制限を頂いておりますが、今日2件、南部工業団地と給食無償化について、そして執行部の方には度重なる南部工業団地の質問、少なくとも町長ご就任以来、コロナ対策を除いて、もっとも質問件数が多かったことかと思っておりますし、本議会においても角度こそ違え5名ほど質問ということ、また直前のベテラン議員からの質問、2件ともちょっと重複いたしましたので、私はこの議会中に相当質問をダイエットいたしましてね、ちょっと時間の配分が上手くいかないことがあるかもしれませんが、この質問回数の多さは、ひとえに町長の責任です。姿が見えてこんから何人でも質問せんといか

んようになる。今後質問、私が質問できるか質問の軸ができないかというちょっと瀬戸際だというふうに思いますので、ちょっと質問というより問答に近くなるかもしれませんが、改めて南部工業団地について白紙の状態でお伺いしたいと思います。まず、この件に関しては、ご就任当時から数字は別として何十億もの投資をすると、それで投資効果があるのかということ、場合によっては凍結を求めるといった質問が調べていると過去に数回されております。しかし、私は2期目を信託された町長に改めて、今期造成の決断と覚悟をちょっとお伺いしたいということで、一つ目ですね、1期目の感触ということでちょっと画像、町長怒られてばかりのなので、少しちょっと実績をですね、これちょうどご就任の時から平成30年ぐらいからですね、いろいろな締結、提携、進出協定を含めて今日に至るまでですね、非常に数多くの締結がなされています。それで2期目ご就任の時は、進出協定が5件ということでしたが、その後4月25日に新たにアクトシーンとかですね、結局進出協定が6件ということで実績も1つ増えてまいりますしですね、また、雇用対策とか人口対策含めましてこういった町にご理解頂いたサポーターですとか、また、住民ではないですけど非常に長く、長い時間有田にご就労頂いている方ですとか、あるいは元々有田出身だけでも非常に遠隔のところから有田にサポートしてくれる人ですとか、松尾町長は関係人口という文言を使ってこういうこと幅広くされておりますので、南部工業団地の質問に先立ってこういった実績も、ほかの協定の実績も含めて、今後新たに、これらの進出協定とまた南部工業団地は性格が異なるものですので、その辺も含めたところで今期の一つの抱負ですね、4年間どうだったかという質問も私はできませんので、そこをちょっと一度、もう一度ですね、大きな声で抱負語って頂きたいなと思います。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕議員がご質問を頂いた件にお答えいたします。やはり1期目はこのように表にまとめて頂きまして誠にありがとうございます。改めて見直すと本当にいろんな関係人口、私はファンづくり、有田のファンづくりだと思っておりますので、その種まきの一環として考えております。議員ご指摘のとおり、やはり南部工業団地とか、企業誘致、特に南部工業団地、南原工業用地に関しては、やはりこれらの協定とまた違うビジョンでしっかりと考えていかなければいけないなと思っております。先程も答えましたが、やはり時代の趨勢というよりは、時代の潮流として、今がベストのタイミングではないかなと思っております。個人的には腹を据えたつもりでおります。あとは町のしっかりとした協議、あと県との共同プロジェクトがございますので、県の方とも時代のタイミングを見誤らないようにしっかりと協議をしながらやっていきたいなと思っております。

す。先日も県との協議もやっておりますので、そういった県との情報交換はもちろんでありますが、議会の皆様にもいろいろな情報提供できるタイミングありましたらしていきたいなっていう腹は思っております。

〔2番 岩尾匡君〕先ほどの別の議員の質問でも、これ非常に良い波が来たというふうな答弁も頂いておりますが、まず過去の4年間は町長は6つのプランを元に全力で駆け抜けた4年でしたということでございます。また、2期目当選された時のインタビューでは、この件に関しては1～2年後に判断をするべきだろうということと、高付加価値の企業を目指しているということでしたが。高付加価値企業ということに関して、特別何か狙いがあるのかということをお聞きしたいと思うんですが、私は2番目の質問に促進業種の絞り込みがあるのかということと質問を準備しておりますので、これまでも少し絞り込みをされているのか、今後もっと絞り込みができそうな兆しがあるのか、その感触をお伺いしたいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕高付加価値という事に関しては、やはりちょっと選挙後の、当選後のインタビューでありましたけども、具体的な事というよりは、やはり私が議員時代から含め、町長になりまして企業誘致の件で動いておりますと、このプランが出来上がった頃は、やはりものづくり、特に自動車産業が優位の時代でありました。それに向けた動きを県も考えられたような気がしますが、やはり今からはもう自動車ではない時代かなと、宇宙産業とかいろんな分野も出てくるかなと。有田が得意としているセラミックス関係の企業等もありますので、そういったところの拡大とか、いろんな話も考えていいのかなと思っております。後ほど質問ありますけども、そういった企業の絞り込みというのは県との協議の中である程度決まっておりますので、私としては、地盤が強い地震が来ない、100%来ないということは言えませんが、やはりほかの他地域に比べたら有田の岩盤の硬さはすごいメリットだと思ってますし、物流、人流に関しても有田は非常に優れているかなと思ってますので、そういったメリット点も強調していきたいなと。そこが高付加価値だと私は思っておりますので。

〔2番 岩尾匡君〕高付加価値というの、町側のインフラということですか。

〔松尾町長〕町も高付加価値ですし、そういうところに合うような企業の高付加価値ということ。

〔2番 岩尾匡君〕不可欠な物流とか、流通の優位性、これはね、インターに近いですとか、JRの佐世保線に近いですとか、これは当初の企画立案の時の優位性だというふうに思っておりますが、町長が過去4年アピールされた優位性ですね。耐震とかもちろんですが、どちらかといえば進出

検討の企業にとって優位なのか、あるいは住民に優位なのか、ちょっとその辺の境目があるんですが、別に工業団地でなくても別にそこ住宅にすれば十分優位性があるのかという質問がどうも今後増えてくるかもしれませんので、ここやっぱり工業じゃないといけないという優位性をどのようにアピールされたのか、町長はしてこられたアピールですね、これちょっと受け入れられた経緯がもしあれば、要するに拓いてない土地に魅力を感じた企業があったのですか。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕過去のお話しではありますので、成功に、契約には至っておりませんが、何個か企業とお話をさせてもらう中では、やはり地盤が固いということだったり、西九州道とつながっているということも魅力、あと一つはやはり伊万里港湾の魅力というところも大変興味を持たれた企業様もあられました。先程話したようにやっぱり固い地盤ということでもあります。過去の資料でも大きな被害をもたらした地震は報告されておられませんので、その辺も非常に大きな魅力でありますし、南海トラフが今後起きるのではないかと予想されておりますが、その中で佐賀県だけは唯一該当しておられませんので、そういったところもものづくり産業としては魅力なところに反応して頂いたなと思っております。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕南部工業団地ですけど、これは現在、佐賀県の企業立地に関するポータルサイト「佐賀立地ナビ」の方に掲載して一応誘致の活動を行っている状況でございます。今までオーダーメイド方式とはいえ、数件のお問い合わせがっております。そのたび随時対応しておりますが、なかなか具体的な話となると、まだまだ煮詰まらない状況のままですね、そこまで、今現在至っていないという状況であります。

〔2番 岩尾匡君〕利便性と特異性という表現、私してますが、耐震が一番特異性ということになるんですかね。地盤が固いというのが一番土地として特異性ということになるのか。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕南部工業団地ではありませんけど、県内の誘致で来られたところの社長さんとお話をするとやはり地盤が固いという、地震が来ないというのは大きな魅力であるというのは企業さんの基準の中では特異性というか、優位性として非常に評価を頂いております。やはりそこを造成してないというオーダーメイド方式だったというのがやはり有田が選ばれない、残念ですけど理由の一つではあるのかなというはちょっと企業誘致を営業していて思っております。

〔2番 岩尾匡君〕私はこの進捗が遅いとか早いとかそういった質問は今日する予定はございません

けれども、やっぱり根底にオーダーメイド方式があるのかと、今、耐震も含めて評価された形跡があるのかということに関しては、担当課長の方から実績にはならなかったけども、数件引き合いがあったということでございます。やっぱり前進が見られない根底の理由というのはオーダーメイドということでしたので、ぜひ、オーダーメイドという方式を少し町長頭柔らかく、今後できるのであれば我々も南部工業団地やるんだと認識できますけど、どうもちょっとこのまませんのではないかと、できらっさんじゃろうというのがちょっとあったもんですからね、ここを少し私は一つ一つ、今日、問診票みたいな質問ばかりしとるけど、ちょっとキャッチしないと今後いろいろな質問が出てくるかなということで、ちょっと質問を続けております。いまだにオーダーメイドということで、これはもう町長ご就任1年目ぐらいにオーダーメイドから既成の方に転換できないかということで、今はついにその時期になったという理解でよろしいですか。また、コンパクトな用地もPRするというを過去にご答弁頂いておるようですが、これは大がかりじゃなくて小さな土地でもOKだよということだと思います。しかし、ちょっと取付道路とかコンパクト1件でも入ったらまず道路を作らんといかんと。周辺の整備をせんといかんと。他の工業団地と違うのは、ここはどうも工業用水に当てはまらないと、上水しかダメだということで、これは上水をどっかから引いてこんといかんでしょうけど、近くにダムがあるからそこから持ってくるという格好はよくないと思いますが、そういった引き合いが1件、2件あった時にその周辺整備と水道ですね、上水道、これ上水道使ったあとは工業用水として、また、排水として所定の設備に流さんといかんとと思いますが、その辺の計画ですね、現在のところ予算組みもされておられませんし、暫定プランとかいつまでにやるということができてないと思うんですけども。その辺暫定プランと整備ですね、周辺の整備、水道の整備、そういったことについてちょっとご答弁頂けませんか。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕現在、南部工業団地につきましては、一応今のところはオーダーメイド方式という形での誘致を進めているところでございます。このオーダーメイド方式というのはまだ拓いていない状況で、実際そこに進出される企業に見合った形で造成を行うという方式になります。当然南部工業団地につきましては、議員さんが仰っていたとおり水道、水の問題があります。工業用水がない有田町では上水道に頼らざるを得ないという状況にございますし、あそこまで本管が通っているわけではございませんので、当然、大量の水を使う企業さん来られる場合には、それ相応の対策をしないと誘致ができないという状況になりますので、ただ、先に設備投資をし

てしまった後、その後来た企業さんが実は水は使わなかったとなるとそれはそれで設備が過剰ということもございますので、その辺りも含めた上で現状では今のところオーダーメイド方式という形になっているというところもあります。

〔2番 岩尾匡君〕 1日あたり1,700㎡が限度だと、水の使用量ですね、これが1件当たりのことなのか全体のことなのか、そこも、またそういったことも町長、客先に言っているのか、その辺もちょっとご答弁願います。

〔今泉藤一郎議長〕 まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕 供給できる水の容量につきましては、今、ホームページ上で記載している分に関しては団地全体という形になります。この南部工業団地は基本的には分割して販売するわけではなくて1社に来て頂くことを想定しておりますので、そういった形になっております。

〔今泉藤一郎議長〕 町長。

〔松尾町長〕 ホームページに記載されている内容で営業はかけておりますので当然水量に関しましても表記されている分ですしております。やはり食品加工業というところからのお話はあってません。それはやはり水がそういう状況だということが多分理解されているので、やはりどうしてもものづくりというか、製造業が中心になったお声かけというか、ご縁なのかなと思っております。

〔2番 岩尾匡君〕 南部工業団地というこれは我々がそう呼んでいるだけで、基本のコンセプトは新産業集積エリア有田ということですね。県内にいくつかあるかと思いますが、町長は例えば鳥栖との首長あたりと情報交換をされているか。武雄に至ってはずいぶんと拓けて足りなくてまだやっている。これが人が人を呼ぶという言葉がありますが相乗効果って、団地があるところにはまた団地が進出したいと。そういったことがあるかと思えます。唐津はちょっと拓けているというお話を聞くし、鳥栖の方が分かりませんが、鳥栖の利便性と有田の利便性、南部じゃなくても新産業集積エリア有田としてちょっと町長に答弁頂きたいんですけども。当初の品目ですね。ほとんど鳥栖と一緒にですね。想定業種、ロボット関連、半導体、医療関連、化粧品、自動車・航空機関ということで、最初の出だしは狙いの絞り込みが全く一緒なんですけど、例えば有田は非常に耐震に優れているという特異性がありますが、他の工業団地予定地の首長あたりと情報交換はされたことありますか。

〔今泉藤一郎議長〕 町長。

〔松尾町長〕 議員からご指摘あったように、これは県との共同事業でありますので、鳥栖の市長、唐津の市長、武雄の市長、武雄はもうあれですけども、そういった各首長さんとは企業誘致に関し

てはやはりどこも力を入れておられますので常に情報交換はお会いした時はしてますし、お互い仲間であると共にお互いライバルでありますので、その辺は上手に私も立ち振る舞いながら情報は収集しております、やはり有田の強みというところを活かしながらというところで考えております。鳥栖に関しましては、やはり交通の要諦ということで考えられておりますので物流の方に力を入れられておりますので有田がそこと、じゃあ物流をとということであれば物流が勝てるとは思ってませんので、有田の強みをしっかり生かしていける企業誘致活動を行っていきたいと思います。

〔2番 岩尾匡君〕過去に町長はこれ単独でどちらかといえども実績が出ればスタンドプレー、単独で動いておられる、担当課長あたりと同行してするのはどうかという過去に質問があつていますが、今後少し姿が見えてきた時に該当する課長さんとそういった人を同行させるなり派遣するなりということを考えられておられるかどうか。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕担当課長としっかり地元で協議もしておりますので、私もお縁があったところに行つていて、課長をわざわざ連れていく必要のない最初のファーストタッチの時にはやはり私一人の方が身軽でもありますし、いろんなぎつくばらんな事もいけます。課長を連れていきますとやっぱり社長の本心が聞けないということは非常にありますので、東京ならば首都圏営業所の担当の課長さんと一緒に動きますし、関西中京だと担当の人と一緒に動いたり、その方たちからも情報を頂きますので、いよいよ詰めなきやいけないなという時は担当課長でも副町長でも連れて行きたい気持ちであります。

〔2番 岩尾匡君〕今後、町長自らワンオペにならないようにして頂きたいというふうに思いますし、画面に表記してあるこういった町の協力隊、町のサポーターで関係人口を含めてこういった方にも少し進出予定企業に対して少しサポート頂けるのかどうかということも、担当課長さんだけでなく、こういった一覧表に出ているような方には何かそういうサポートをお願いするということはありますか。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕もちろんそのように考えておりますし、ちょっといろいろとお願いしたいことも今提携結ばせてもらってると思っておりますので、ぜひ積極的にいきたいと思つています。

〔2番 岩尾匡君〕南部工業団地はこれで終了いたします。時間があまりなくなつたので、これもちょっと直前の質問と被ることになりますが、給食費無償化についてということで、給食費の無償

化ということ、受けのよさそうなタイトルですが、これが付記したいのは、原料高騰対策ということで改めて町長にお伺いしたいんですが、これ町長にお伺いする部分はですね、これは公約でほとんどの町民まだ公約であったはずと。今回の抱負には付記されておられませんので、給食のどこにいったらうということがございましたので、改めて。先程も答弁頂きましたけれども、原材料高騰対策ということでどういうお考えなのか。

〔今泉藤一郎議長〕 町長。

〔松尾町長〕 議員ご指摘の件ですけれども、高騰分に関しましては、国の方からもOKというか、大丈夫ということで判断頂いてますので、その件に関してはやりたいと思っております。公約で私が外したというのは全額無償というのは無理だなというのが正直議員時代と首長という立場の違いから考えますとあります。やはり子どもたちにそういう給食の無償化ということで提供する気持ちもありますけど、もう毎年、高齢者、福祉、いろんな交通体系の整備とかに未曾有にお金が上がっている中で、本当に困った人には給食は準要保護の方たちにはきちんとサポートできていますので、本当に困った方に手が届くような政治をやっていくべきだと思っておりますので、給食をないがしろにしているわけではございません。むしろ今から私は給食の無償化を謳うんではなくて、有田町の給食は本当に美味しいと、どの先生も言われますので、そこをPRしていくこともあると思います。やはり食と器の町であります。食をタダで食べた子どもが食に関してはできるかというのはやはりそこは考え方の違いがあるかもしれませんが、私はそれはあまり薄いのかなと思っておりますので、できるだけ食に対して感謝できるような環境を作ることが私は首長としての仕事だと思っております。教育と無償化というのはリンクしてそうですけど、そこはちょっと違ったりするのかなと思っておりますので、ここはいろんな議論があると思っておりますが、やはり今の時点では私は給食の無償化っていうのは全額というのではないと先程の答弁でも申したように。でも、本当にそこは望まれている方がおられるという事実でありますので、できることを教育委員会としっかりと研究していきたいと思っております。

〔2番 岩尾匡君〕 給食費に関する食材費以外にいろいろ設備費、人件費あると思いますが、この総合的な経費と食材費のバランスを担当課長よりお願いしたいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕 学校教育課長。

〔福山学校教育課長〕 それでは私の方からですね、答弁させて頂きたいと思っております。現在、給食費として保護者の皆様から頂いているのは食材費のみというふうなことになります。令和3年度でこれ6校合わせた合計で年間約7,500万円というふうになります。また、給食を作るために必

要な諸経費ですね、今、議員さん仰いましたけれども、諸経費といたしまして、燃料費や消耗品費、備品、設備費、各種機器の点検手数料などそういったものを合計いたしまして令和3年度はその費用が2,460万円程かかっています。それ以外に人件費がこの令和3年度8,660万円というふうになっています。この費用の全体に、この給食費、食材費が占める割合というのは約4割というふうになっています。この4割が全体に占める割合というふうになっている状況でございます。

[2番 岩尾匡君] 給食費というのは元々食材費の費用弁償というのが全体ですのでね、ところが、昨年はですね、今はその時期ではないと、今も町長でも全額負担は難しいということですが、資料出すまでもなく毎日の報道はですね、物価高騰、家計を直撃、消費者の悲鳴、あるいは食を提供する農家などの落胆、絶句、あるいは今年度内に値上げの品目1万点を上回るだろうと。そういった非常にSOSに近いニュースが報道されているところでありますのでね、これ給食費は費用弁償ということですが、これ全額保障する気はありませんか。食材費を。

[今泉藤一郎議長] 教育長。

[栗山教育長] その件については、私の方から答えさせて頂きたいと思いますが、先程課長も申しましたように町が負担しているお金が人件費とか施設設備関係で1億1,000万円程かかっているわけでございます。こういったものを充実させる中で美味しい給食、安全な給食を子どもたちに提供するとそういう考え方に立っております。また有田町は6校学校がございますが、各学校に給食室がありまして自校方式って言いますけど、そういうことで非常に学校と食育の面でも、ここは重要だと考えておりますので、そちらの方に予算はできるだけ重視をしていくという考えに立っております。無償化については町長も申しましたようにいくらかでもというふうなですね、そういう方向性を町長が先ほど出したと思いますので、そういったところで検討をしていくという考えでございます。

[2番 岩尾匡君] ありがとうございます。減免ということはですね、少し減免ということによろしいですかね。給食費の減免というか、少し補助ということになるんですかね、全くそこは変わらないのか。もう時間がございませんが。

[今泉藤一郎議長] 教育長。

[栗山教育長] 減免ということはどうかはちょっと分かりませんが。支援といいますか、補助といいますか、そういう考え方になるかと思えます。

[2番 岩尾匡君] 時間が無くなりました。先ごろ国の方も緊急に地方交付税に給食費減税を盛り込

んだということですので、ぜひ、この件が一步でも進みますようお願いを申し上げて質問を終わりたいと思います。資料の提供あるいは時間の配分等、不備な点につきましてはどうか今後ご鞭撻を賜るようお願い申し上げて私の質問を終わります。ありがとうございます。

〔今泉藤一郎議長〕 2番議員 岩尾匡君の一般質問が終わりました。昼食のため休憩いたします。再開は13時といたします。

【休憩 11 : 51】

【再開 13 : 00】

〔今泉藤一郎議長〕 再開いたします。昼食前に引き続き一般質問を行います。9番議員 原田一宏君。
〔9番 原田一宏君〕 議長より許可を得ましたので、9番 原田一宏、通告に従い一般質問をさせていただきます。私は今議会において、1. 企業誘致、2. 新型コロナワクチン接種の2点についてお伺いいたしますので答弁の程よろしくお伺いいたします。質問の前ですが、松尾町長2期目の町長就任おめでとうございます。また、副町長も再任されたということで、円滑な町政運営に期待しておりますので、どうぞよろしくお伺いいたします。では、質問に入ります。1番、企業誘致ですが、今日も午前中にほかの議員さんから質問がありましたが、私は企業誘致と企業進出協定についてお伺いいたします。まず、町長のリーフレット、今画面にありますけども、1期目、有田町を幸せにする6つのプランが掲げられ、そこには子育てする幸せ、働く幸せ、幸せな町の運営、幸せな老後、幸せな観光地、学び楽しむ幸せの6つの施策を謳っておられました。2期目は、有田みらいタウン、5つの有田力を伸ばしますとして、教育力、活力、暮らし力、行政力、地域力を上げられております。未来志向としての5つの力、素晴らしいことと拝察しますが、ここに1期目の働く幸せの中の企業誘致というものが表立って出てきておりません。南部工業団地の件もあり、誘致が困難なのかどうかは分かりませんが、表立って上がっていないのはどうかと思います。まず、その点をちょっとお伺いいたします。

〔今泉藤一郎議長〕 町長。

〔松尾町長〕 充分1期目で種をまいてきたとっておりますので、2期目はやるつもりでおりますが、ここの表記の中にはちょっと抜けているという状況であります。私の中では先ほど来、今回一般質問の中でいろいろ説明してきているように一丁目一番地のぐらいの覚悟では思っております。

〔9番 原田一宏君〕 昨日の所信表明や今回午前中の答弁には企業誘致の文言も出てまいりましたし、

今の町長の答弁を聞いてスルーはしていないと理解をしております。では、このリーフレットに
ですね、ここに、企業立地2件、事務系IT企業進出協定5件とあります。まず、この企業立地
2件を確認の意味でどこかをお伺いをいたします。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕有田町では既存企業が増設または移転する場合には立地協定というものを結
んでおります。この2件は立地協定にあたる分でありまして、1件が工場増設で株式会社アンス
コさん、もう1件が移転の方でアシック株式会社となります。

〔9番 原田一宏君〕ではこの今言われた企業立地による2件に関して雇用の状況というものはどの
ようになっていますか、わかりますでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕立地協定時に町に提出された事業計画では当初雇用予定数は2社合計で20
名となっています。町では優遇制度を適用する時に雇用状況を確認しておりますが、町の優遇制
度は佐賀県の企業立地補助金などと一体となった誘致支援策となっておりますので、進出立地協
定後、2年後を基準日と定め、その日における人数を雇用数としてカウントしております。この
ため町で確認している実際の雇用数としては1社のみで、現在把握している状況で12名の雇用
となっております。12名の雇用中、地元雇用は6人です。

〔9番 原田一宏君〕次に、先ほどの2番議員さんの時の画面の資料にも出ましたけども、IT、事
務系IT企業進出協定5件とありますけども、その実績どのようなものがあるのか、ちょっとお
伺いをいたします。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕こちらの方は企業の進出協定の方になると思いますが、町長1期目の平成3
0年度から令和3年度までビジネス系オフィス事務系企業、いわゆるIT関連の進出が5社とな
っております。進出企業名としては、株式会社ライツさん、株式会社スチームシップさん、ピ
ノー株式会社さん、株式会社イノベーションパートナーズさん、それとJPホリック株式会社さ
ん、以上になります。

〔9番 原田一宏君〕2期目は先ほども出ましたけども、アクトシーンさんだけでよろしいですかね。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕今年度になってからになります。令和4年4月25日に株式会社アクトシ
ーンさんと進出協定の方を締結しております。

〔9番 原田一宏君〕IT系の企業、今年まで入れて6社の進出協定を結ばれておりますけども、その主な契約内容がどのようなものかをちょっとお伺いをいたします。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕契約というより協定の内容ということになりますけど、この協定ですけど、これは町と進出企業さんとの紳士協定といった位置づけになります。例えば、町は、例えば進出企業が事務所の設置及び事務を円滑に行うことができるように協力すると。あとは、企業さんとしては地元を雇用するとかそういった形の紳士協定というか、結んだような形になっております。これは契約行為と違って法的な制限はありませんので、当事者間で協議を行った上で事業に取り組むことを明文化したといったことになります。

〔9番 原田一宏君〕町長がですね新聞報道で協定締結の写真等を撮られてよく出ておりますけども、町民さんからの声で、協定の記事がよく、協定締結の記事がよく出ているけれども、その協定締結に伴う契約金等の件はどのようなになっているのかと質問がありまして、進出協定を結ぶ際にですね、協定契約金などが発生しているのかどうかお伺いをいたします。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕こちらの方は一般的な契約行為ではございませんので、契約金等はありません。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今、議員ご指摘の件ですけども、やはり進出協定に関しましては、全くお金が協定自体にはかからないもので、例えば私が企業訪問してお話がありました、じゃあ、今から何かやりましょうという時にやはり先ほど前段の質問でありましたけど、プランにそれ相応の1年なり、2年なりかかりますので、そういった候補地を探すためにもっていうことを向こうも思われています。我々もせっかくのご縁をできるだけ破談しないようになんかとりあえず紳士協定を結びましょうということで協定のお話をして、そこから初めてスタートラインに立ちます。そこからいろんな話を詰めてこういう場所にいいでしょうかという話から進んでいくと思います。私が2期目の時にアクトシーンさんになりましたけど、アクトシーンさんもその前から早く出したいということでしたけども、慎重な社長さんでありますので、ゆっくりでいいからということでしたので、確実に話を進めた結果、4月がスタートラインだということで、協定を結ぶことによって信頼関係のまず第一歩ということで、我々は理解しております。町民の皆さんが心配されることかもしれませんが、そういう契約に関して協定に関してはお金が発生しているわけではございません。

〔9番 原田一宏君〕今、言われましたけども、企業進出協定にはかからないと、それでほかにも他の協定サッカーであったりとか、バスケットであったり、大学等も含めて数多くありますけども、それらの協定でも先ほど言ったような契約金等の発生はあるのかないのか、ちょっとそこをまたお伺いいたします。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕連携協定となるとは思いますが、こちらの方も特に契約金等はありません。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕先程と同じで、こちらの場合は企業とは違ってサッカーとかバスケというのは、私が本物の教育に触れてもらいたいという思いがあったりとか、私の政策等で意気投合した方をお願いをしております。また、有田町の文化交流大使に関しましては有田を愛してくれる人とか、有田の宣伝をしたいという人と会います。こちらの方もほぼ無料というか、名刺とかそういったところの経費はかかりますけども、そこはほぼ無料でやってもらってますので、有田のいわゆる関係人口、ファンづくりの一つとしてのそういう企業、大学とか、プロチームとかですね、あと文化交流大使の方たちにはそういった思いが通じた方をお願いをしている流れです。

〔9番 原田一宏君〕はい分かりました。次にですね、企業立地が2件ありました。それで企業立地でしたら設備投資奨励金として固定資産税の免除や減免措置、また雇用奨励金などがあつたりしますが、このIT関係に関しましては特約事項などというものは存在するのでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕今回、事務系企業が今のところ6社進出協定の方を結んだような形になってますけど、この協定に関しましての特約等は特にございません。あと実際にはですね、進出されて実際稼働されるまでの間に、稼働されたときにですね、ある程度の条件を満たせば優遇制度という形でいろんな補助金等が発生するような形になります。

〔9番 原田一宏君〕先ほどの企業立地の件では12名中6名が町内からの雇用ということでしたけども、このIT関係ではですね、もし雇用するにあつたかちょっと分かりませんが、雇用するにしても少ないのではないかと思われまふ。雇用が生まれて初めての企業誘致、企業進出協定なのではと思ひますが、町内からこのIT関係の企業に対して雇用というものは発生しているのかどうかそこをちょっとお伺ひします。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕こちらの方もまだ2年経っていない関係もありまして、実際進出協定されてから2年経ってませんので、うちの方に実績等が出てない状況ではございますが、立地協定時に町の方に提出された事業計画では当初雇用予定数が24名となっております。6社合計ですね。

〔9番 原田一宏君〕何名か雇用されてる方もいらっしゃるようですので、ぜひそこらへんは町としてどんどん進めていってほしいと思いますが。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今、議員がご心配になられている町内からの雇用というところに関しては若干名ではありますが各企業あられると。全ての企業ではないですけど、あられます。今進出されている企業の方たちの一つの大きな有田町に出店する進出する魅力としてはやはり有田工業高校生の技術力だったりデザイン力であったりということもありますし、有工の実業高校としての実力の高さということにも惚れられてます。また、佐賀大学の芸術地域デザイン学部があるということも魅力ということで。できるだけ有田町からが良いんですけども、ここの近隣の地区からの採用ということも一つ大きな彼らからするとメリットだということが私も回っていて実感しておりますので、そういったところも含めてしっかりとPRしていきたいと思っております。

〔9番 原田一宏君〕次、今後の進め方ということで、締結企業間の連携と今後の進め方ですが、IT企業それぞれに各社特異性をもち、それらをより生かすためにも横の連携も必要ではないかと考えますが、その辺り町として協定を結ばれた企業との関係、横の関係というものをどのように捉えられておりますでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕現在、進出協定を結んでいる事務系企業6社ですけど、このうちの4社ですね、2社同士それぞれが元々協力会社ということもあって有田町へ進出されております。この進出されたIT企業間におきましては、それぞれ得意分野がありまして、デジタルといった大きな枠組みではあって同業者として捉えがちではありますが、細かく事業の方が分かれておりまして、それぞれ強み弱みを補完する形で事業展開をされております。このため現在進出された企業との取引関係で新たな企業進出ともつながることもありますし、進出された企業間でまた仕事の幅が広がっていくとかそういったこともあるかと思えます。

〔9番 原田一宏君〕是非ですね、その横の連携を強めてやっていってほしいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕進出して頂いた企業は有田焼の窯業というオールドテクノロジーの部分と自分たちがも

っているニューテクノロジーの相性の良さというところも非常に興味を持たれています。実際、窯業だけにとらわれずに農業もありますし、舞原団地とかもあります。工業団地もありますので、そういったところとの企業とのマッチングというのは大事だなと思ってます。企業のマッチングも含めてですけども、やはりDXというのは行政であろうが民間であろうがしていかなくちやいけないところなので、DX連絡協議会等みたいなものを作るのも一つの手かなと思ってますので、ここは商工会議所さんとかいろんな関係機関と話しながらそういったマッチングの場を想像したり、じゃあ有田がどういう方向に行くのかという協議の場がやはりこれからは必要だなというのは個人的に今思ってますので、そこはちょっと役場内でしっかり話をしながらそういった横の連携含めてDX化に向けた一つのきっかけになると思いますのでご提案頂いたと思っております。

〔9番 原田一宏君〕 よろしく願いをいたします。ITの企業ですと事務所があればリモートで仕事ができるし、在宅でもできます。しかし現在、町内では空き家が増えており、その空き家を利用して事務所兼住居でもいいので活用できないかと思いますが、この空き家利用についてはどのようにお考えでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕 コロナ禍でリモートワークが非常に一般的なものとなってきております。また、働き方改革等でワークライフバランスの充実や多様な働き方ができる場所として今注目を浴びているのがサテライトオフィスという形になります。内山地区の空き家につきましては、特に内山地区ですね、ここの空き家につきましては、こういったサテライトオフィスとしてのある意味、他の地区にはない魅力があると思っておりますので、このあたりを中心にIT系企業の誘致の方に進めていきたいというふうに考えております。

〔9番 原田一宏君〕 午前中6番議員さんの質問でも出ましたけども、伊万里市のようにビルを新築してそこに企業を入居させている事例もありますが、やはり町内の空き家対策の意味でも活用を考えて利用していけば特例措置が増えるなどの策を練る、特例措置を利用すれば特例を増やすとか、そういうの練ってですね進めていくのも一つの手立てだと思いますけど、この件に関して町長の所見をお願いします。

〔今泉藤一郎議長〕 町長。

〔松尾町長〕 議員ご提案のように伊万里とか嬉野も新しいビルを建ててそこにIT系みたいな企業がたくさん入られております。今、我々も話をしているところはそういった興味もあられますが、内山に建てたいという企業もあれば、全然普通の雑居ビルの中の一室を借りたい。なぜかという

我々はサテライトオフィスというよりも地元の雇用を考えて、やはり採用して2～3年は東京で働いてもらうけどこっちで地元としてしっかりとした事務所を持ちたい。彼らにとっては住まいのあるところなので別にそういうわざわざ都会の人が来るような、訪ねたくなるようなところにある必要はないということが持論の方もおられましたので、そういった意味で言えば議員ご提案の内山というところに特化した、採される方もおられますので、そこは担当職員を含めてしっかりサポートしております。別にこだわりがないというところに関してはいろんなご提案をしながら進めていきたいと思っておりますので、有田という土地に魅かれて来られている方が多いのでちょっと場所のご案内というのは遅れているかもしれませんが、そこはしっかりとサポートしていきながら企業誘致を進めてまいります。

〔9番 原田一宏君〕 ぜひですね、一石二鳥、空き家対策も兼ねてということもありますので、そこら辺は極力力を入れて進めていってほしいと思います。続きまして、次2番目ですけども、新型コロナワクチン接種について、まず3月の一般質問で、5歳からの11歳の接種予定はとお聞きしたところ、県の供給計画を元に、まず8歳から11歳、最初5歳から11歳で聞いて、8歳から11歳を3月7日から実施し、その後年齢層を広げていく。仮に50%の接種率とすると6月中旬には終了予定とのことでした。全国ではなかなか接種率が上がっていないようで、1回目13.5%、これは5月の頭ですけども、のようですが、有田町の小児接種の状況と終了予定はどのようになっていますでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 健康福祉課長。

〔川崎健康福祉課長〕 5歳から11歳の接種状況についてですけれども、先程議員が仰ったように、今年の3月7日から開始をしております。5月31日時点で2回接種完了者は26.4%となっております。この小児のワクチン接種については、努力義務が課されていないため、お勧めをするスタンスであることと、小児は罹患しても重症化しにくいという状況もあり、接種率は12歳以上に比べて著しく低くなっております。ただし、県からの情報によれば有田町の小児ワクチン接種率は県内でもトップクラスだということを聞いております。2回目の接種終了の予定といたしましては、現在の予約状況は極めて緩慢であり、実質的には希望者の接種はほぼ完了している状況に近いであろうと見込んでおります。接種終了の予定としては、国が現時点での接種を行う期間として定めてしている今年の9月30日までとしております。以上です。

〔9番 原田一宏君〕 ではですね、この子ども小児接種で3回目というものはあるのでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 健康福祉課長。

〔川崎健康福祉課長〕 3回目の接種についてですけれども、アメリカのFDA食品医薬品局は、ファイザー社の小児用新型コロナワクチンの3回目の接種について緊急使用を許可したというニュースが報道されておりますけれども、今のところ日本では3回目の予定はございません。

〔9番 原田一宏君〕 2回目で終了ですね。続きまして、小児接種での、一般でも副反応がありましたけれども、小児接種での副反応というものがあるのか、あればどのような反応があるのかをお伺いします。また、有田町での事例があるのか、そこまでちょっとお伺いをいたします。

〔今泉藤一郎議長〕 健康福祉課長。

〔川崎健康福祉課長〕 小児の副反応についてですけれども、12歳以上の方と同様、接種部位の痛みや倦怠感、頭痛、発熱と様々な症状が確認をされておりますけれども、ほとんどが軽度または中程度であり回復していること、現時点で得られている情報からは安全性に重大な懸念は認められていないと判断をされております。

〔9番 原田一宏君〕 町内では？

〔川崎健康福祉課長〕 町内の状況はちょっと今のところ把握はしてませんが、重大な症状が出たという事例は報告を受けておりません。

〔9番 原田一宏君〕 はいありがとうございます。続きましてですね、18歳以上の4回目接種。これは5月25日から始まっておりますけれども。これについて接種対象と上げておりますけれども、ここに各戸配布の5月11日付の重要なお知らせ、これは各戸配布でしたけれども。この中にこのなんですか、対象が上がっておりますけれども、一応1番から14番まであと2番のBMI30以上とか、その他重症化とかありますけれども、これでほかには何かありますか？これですべてでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 健康福祉課長。

〔川崎健康福祉課長〕 先程、重症化リスクが高いと医師が認める方というのがありますけれども、新型コロナウイルス感染症については、基礎疾患を有する方は重症化しやすいことに加え、高齢の方、また妊娠している方も重症化しやすい事が科学的に明らかとなっております。また海外の報告によれば喫煙や身体不活動、いわゆる運動不足といった生活習慣がある方も重症化しやすいとされております。また、この重症化リスクが高い基礎疾患等については、国の予防接種ワクチン分科会予防接種基本方針部会等で審議された結果決定をされております。なお、4回目接種の対象者の範囲については、国において引き続き様々な情報を収集しながら検討は続けられるということです。以上です。

〔9番 原田一宏君〕 この資料のですね、一番下、60歳以上の皆さんへ、申出の必要はありませんと書いてあります。この中にですね、上でしたね、上の方のここに60歳以上の方、努力義務とあります。この詳細ですけども、なぜかといいますと、60歳以上の町民さんよりこの努力義務とは結構質問受けました。希望されるのであればなんですか、あれが、ワクチンの希望の来ますよね、5ヶ月経ったら来ますので、申し込んでくださいと簡単に伝えましたが、そこら辺もうちょっと対応ができなかったかどうかちょっとお伺いをいたします。

〔今泉藤一郎議長〕 健康福祉課長。

〔川崎健康福祉課長〕 こちらのほうはですね、5月の11日にお配りを全戸配布でさせて頂いております。こちらが重要なお知らせについては主な目的が基礎疾患等がある18歳から59歳の方に対して接種券の発行申請を受付けますという内容になっております。この対象者においては60歳以上の方については、接種券は希望されるされないに関わらず全員に接種券、5ヶ月以上経過した方から随時発送するようになっておりますので、ちょっとそのような対応にはなっております。

〔9番 原田一宏君〕 この60歳以上の皆さんへということのを太字にするとかですね、そういう対応があってもよかったのではと思います。こっち、すみませんね、最後のところに議員各位ということでもらった資料によりますと、ここに60歳以上の方は申請は不要と、こういう具合に書いておりますから、こういう町民へのサービスがあっても良かったのではと思います。何はともあれですね、円滑なワクチン接種を行い、感染防止に努めていってほしいと思います。最後になりますが、今後の松尾町政に対し、一言、選挙前の事務所開きの際、松尾前議長が所用のため欠席されて私に激励の挨拶を町長から頼まれました。その時私は、町長も言われておりましたけども1期目は種まき、2期目にその種を芽吹かせて成長させるのが町長の責務であり、それができるのが松尾佳昭君であると熱いエールを送りました。町長も言われましたが、佐賀県の山口知事も挑戦なくして伝統なしという文言をよく使われております。例え失敗してもそれを恐れず、その失敗を反省して次へ、良く言われます前へ進んでリーダーシップを発揮され突き進んでほしいと思います。町長の2期目に熱いエールをまた送りまして、私の一般質問を終わらせて頂きます。ありがとうございました。

〔今泉藤一郎議長〕 9番議員 原田一宏君の一般質問が終わりました。10分間休憩いたします。再開を13時40分といたします。

【休憩 13：29】

【再開 13：40】

〔今泉藤一郎議長〕再開いたします。7番議員 手塚英樹君。

〔7番 手塚英樹君〕議長の許可を頂きましたので、7番 手塚英樹、一般質問を開始させていただきます。私の本日の質問は、観光振興について大項目として上げさせていただきます。1番目に小項目といたしましては、町長の所信を昨日お聞かせ頂きましたので、それについて観光振興についてお聞かせ頂きたいと。2番目に、観光客の誘客についてのお話を聞きたいと思っております。3番目に、観光資源の再開発という形で質問をさせていただきますと思います。それでは順番に沿ってお話をさせていただきます。観光振興についてということでございますけれども、今年の陶器市3年ぶりに開催されたわけですが、大変、開催前までは地元の商店街、我々も含めてですけども、大変心配しておりました。コロナ禍の中で本当にお客さんが来てくれるのだろうか、本当にお買い物してもらえるのだろうかというふうな形で、大変心配をしながら感染を防止して陶器市の日を迎えたわけですが、大変多くのお客様が来て頂きまして、しかもお買い物の方もそこそこして頂きました。我々は、商店街のみんなといたしましては、お客様に元気と勇気をまさにもらったなど。これからこういう形でお客様を受け入れられるんだというそういう実感を感じまして、これから6月の10日からですか、国の方はインバウンドの受け入れもしていこうという。こういうふうな形に動いてきたことで、今まで地元では9月のイベントは開催しておりませんでしたけれども、ぜひこの9月のシルバーウィークにもぜひイベントの企画をしようよという形で今企画に入るような形になってまいりました。そのように観光客、観光というのが我々地元の者にとっても、それからお客様と会えたという喜びで、観光の持つ、人の力、それから有田の魅力というのを再発見したのがこの陶器市だったというふうに思っております。そこで通年観光を我々は目指すわけですが、昨日、町長の所信をお聞きしながら改めてもう一度町長の方にお話をお伺いしたいなというふうに思っております。まずは、昨日頂きました所信、全体で見えていきますと、それぞれに書かれておるわけですが、町長のビジョンというのを一つお話を頂ければというふうに思います。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕やはり所信表明は、全方位的な総花的なお話になりますので個別具体的にというところで難しかったかもしれませんが、やはり私は観光面に対しては特に力を入れていきたいと思っております。先程お話を頂いたように、コロナになった最初の年はWeb有田陶器市という新しい形でDXの形でご提案をできましたけど。やはりその時は巣ごもりの中の展開でした。やはり

先ほどお話なったように今年3年ぶりに開催して、本当に多くのお客様に有田に来て頂いて本当に元気と勇気ももらいました。やはりこれからは先ほど申しましたが、ウイズコロナ、ポストコロナの時代になってきます。やはりこの動けなかった厳しい時代を乗り越えてやはり皆さんいろんなことに興味があります。その中でやはり有田町としての自然と歴史と伝統というところはすごい強みになると思いますので、ここは県の観光連盟、私も幹事をやらせてもらっていますが、まずはマイクロツーリズムというか、九州県内でここ1~2年はしっかりとアナウンスをしていくべきだと思っております。9月23日にも西九州新幹線が武雄温泉、嬉野で開通しますので。そういうところも含めて、ありったけのうれしいのチームでしっかりと個々の宣伝をしていきながら10月からDCも始まりますので、そこは本当に全体としてやっていきたいなと思っております。その先には先日の質問にも答えましたが、やはり国内に、関西がきて、国内に広がり、次はインバウンドだと思っておりますので、そういった体制も昨日もお話いたしました。デービッドアトキンソンさんのアドバイスを聞きながら文化的なアプローチ、観光的なアプローチを表現していきながらやっていきたいなと思っております。また、将来的なインバウンドの回復を見据えて、これはちょっと観光という切口ではないかもしれませんが、クリエイティブレジデンシー事業も昨日お話ししたように、今、今年の6月から実際にオランダの方からお二人来られます。そういったことで海外の方も緩やかにですが進んでおります。今までやはり観光産業でご飯を食べてきたというところはあまり少ないので、そこも難しいと思いますが、徐々に今回の有田陶器市で頂いた勇気元気で段々そういった観光に向けてもやっていきたいなと思っております。あとの観光というところで一つやはり宿題と思うのは、私は夜、夜というか宿泊がないということもありますので、企業誘致と共にですね、ぜひビジネスホテルのちっちゃなやつでもいいからということで今いろいろ動いております。なかなか近くに2大温泉地もあります。伊万里、佐世保に関しましては、ビジネスホテルもしっかりありますので、そういったマーケティングをしてしまうと必ず最後のところでアウトというお話が結構多いので、そういった中でもやはりとはいえ宿泊施設というものができないかなということも考えております。あと民泊とか民宿の力を付けることも必要かなと思っておりますので、その辺も含めて宿泊付きの観光とか、あと長期滞在型クリエイティブレジデンシー事業みたいな、作陶に1ヶ月2ヶ月と泊って頂けるような、先程もありましたが空き家店舗のお話しとかも含めた上で、内山グランドデザインの中にそういった宿泊をどう持っていくかということも一つの観光の大きなカギだと思います。観光も本当にいろいろ課題はありますが、私も積極的に今期4年間はやっていながら、インバウンドに向けた有

田らしいインバウンドに耐えられるぐらいの素地がありますので、そこをしっかりとPRしていきながらやっていきたいなと思っております。

〔7番 手塚英樹君〕 コロナ禍の中で焼き物の販売に東京や大阪辺りに出張される方は本当に命がけという言葉が語弊があるかわかりませんが、感染罹らないように本当に家族の皆さんから言われながら行って帰ってきたら1週間は家族と隔離されて、そしてまた町内の仕事にかかっていく。また今でも関東や関西に行かれた方は一旦ホテルに泊まってそれから家に帰って来られるという方たちもいらっしゃいます。そういう方々たちが口々に仰るのは町内にお客さんがたくさん来てくれたらこんなに出張に行かなくても地元で生業が成り立つようになりたいなというのは本当に切なる願いだというふうに思っております。観光行政の中で行政の方の力として私は町内にどれだけ呼び込めるか、お客さんをどんなふうと呼んでくるかというのは行政だと思っております。それを受け止めるのが民間の企画力だというふうに思っておるんですけども、町長この辺りどうでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 町長。

〔松尾町長〕 今、手塚議員が仰ったようにまさに私は観光というところの業務を分けるとすればやはり有田町としてしっかりと有田町を宣伝するのは我々の仕事であり、私が常々申し上げておるトップセールスは正にそこにあると思っております。そこで呼び込んだお客さんが実際有田に来てもらった時にはそれはもう町民さんのおもてなしだったりいろんなことだとします。そこでちょっと足りない部分があったりすることを有田観光協会などで補えれば良いなと思っております。まさに今日の佐賀新聞に載ってございましたけど、有田焼が商業率トップということも先人たちが本当に日本の津々浦々全国重たい焼き物を抱えて回って頂いたおかげだと思っております。そういった知名度の利点もありますのでこっちに今度は来てもらうような仕組みづくりというのを我々行政がしっかりとPRして、どう知恵を絞っていくかなということで、今担当課とも一生懸命話しておりますし、観光協会の会長も今兼任させてもらっておりますので、そういった観光協会と町としてどうやれるかというところを協議をしております。でもやはりそこでお客さんを受け入れてもらえる町民の皆さんの体制というのも大きなカギだと思っておりますので、我々はトップセールスをしながら観光客が来たお客様を喜ばせて帰って頂けるような仕組みづくり対応をして頂くのが町民の皆さんかなというのが私の考えです。

〔7番 手塚英樹君〕 ぜひとも一人でも多くの観光客の方を通年有田の中に呼び込めるような形をぜひ行政のお力でやって頂いて、それを受け止める我々地元にいるものは、それをどう優しく受け

止めていけるか、またそれでどうリピーターを作っていくのかというのが民間の方の力というふうに思っていますので、この辺両輪としてやっていかれるようにぜひとも町内への呼び込みはよろしくお願ひしたいと思います。さて、次2番目になります。観光客誘客のために観光客にお買い物チケットを用意してはどうだろうか。これは、やっぱり有田に来て、今までチケットの話をするとあれなんですけども、飲食店の方を支え合うという形で「たすくっ券」という形で町内でお金を回しながらお互い支え合ってきたのがこの2年間でなかったのかというふうに思うんですけども、これからは有田に外貨を取り込めるような、外からのお金を中にどうやって入れていくのかというのが我々の考えていかなければいけない大きな仕事だというふうに思っております。その中で私はこのチケットは一つの力になるのではないかなというふうに思っております。まずは有田町はどんな形でお客様を呼び込もうとしているのかなというのと、まずは、まち・ひと・しごと総合戦略で、令和6年までに観光客の目標を年間265万人を迎えましょうよと。そして今年はこの陶器市で122万人呼び込みました。残りあと143万人今年呼べれば目標に達するような形になるわけなんですけども、これ少しでもたくさん呼び込むような形を先ほどの話とつながってまいりますけれども、呼び込む力を作っていきたいというふう思うんですけども、その中に来て頂いたお客さんが買い物したり、タクシーなどに乗って町内を見学されたりする時にも使って頂けるちょっとお得感があるような、1割ほどの、例えば1万円程のチケットを買われると1,000円分お得になりますよというようなチケットをお持ちになられて、町内で買い物されたりお食事されたりするようなことができたらいいのではないかという形で提案させて頂いております。これで例えば町の方で1,000万円の予算を組まれてこのチケットを準備したとしますと1億1,000万円、約1億の外貨を獲得できるというような形になろうかというふうに思います。こんな形でこのチケットを有効に使いながら有田町で買い物して頂き、またいろんなところに動いて頂く、そしてまたチケットが余ればまた年内使える有効期間というふうにすればまた来て頂けるようなそのようなチケットを発行してはどうかというふうに思っております。これで一気になるとは思いませんけれども、有田は観光客の方が来られた方にはこんなにお待ちして使ってくださいよ、優しい町ですよというのも一つのPRになるのではないかというふうに思っております。これを今すぐというとなかなかできないと思いますので、秋の陶磁器まつりそれから春の雛まつりぐらいまでは何とか準備をしてこういう形でリピーター客を作り、有田の観光に来られた方が楽しんで町内を散策されるようなことができないかというふうに思っております。このような考え方の私が思ったのは、北海道の美瑛町というところで、富良野のお隣の町なんです

けども、ここが地域通貨券、通貨コインというですかね、電子通貨というのを取り上げられまして、大変好評でBeコイン、美瑛のピを使ってBeコインという形を導入されて観光客の誘客をなさっていらっしゃる記事を読ませて頂きながら、これをすぐ有田で取り入れるのはなかなか難しく我々の周りもまだまだガラケーの携帯をお持ちですので、スマートフォン替わろうという形がなかなかすぐ入りませんが、将来的にはこんなこともできるような町になるといいというふうに思いますけども、まずはこのチケットを導入してはどうかというふうに思いますけどもいかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 商工観光課長。

〔堀江商工観光課長〕 お答えいたします。議員のご質問にもありましたが、まずは行政が観光客を呼び込むことということにつきましては、私もそう思っております、最も重要であると認識しているところであります。町としましては、これまで県内外での物産展イベントまたSNSを通じて観光PR活動、これを行ってきましたけども、この件につきましては引き続き、積極的に行っていこうと考えているところです。議員の先ほどのチケット発行につきましては、これまでは主に町民向けといいますか、そちらのプレミアム付き食事券であったかと思いますが、これを観光客用として発行してはどうかという質問内容と理解しております。当然ながら予算面、あとチケット販売時に観光客の方と町民の方の区分けといいますか、その線引き等の課題はありますけれども、その誘客事業の一つとして捉えるのであれば10番議員さんのご質問時にも若干お答えいたしましたけれども、まずは西九州新幹線の開業に伴う「佐賀・長崎ディスティネーションキャンペーン」に関連付けてですね、秋の陶磁器まつり時に販売することも一つの方法かと考えているところです。現時点ですね、実施するしないという回答は致しかねるんですけども、今後どのようなやり方、どのような方法が一番いいか検討しながら、県の観光協会をはじめ関係団体と調整検討していき前向きに考えていきたいとは思っております。

〔7番 手塚英樹君〕 町長はいかがでしょう。

〔今泉藤一郎議長〕 町長。

〔松尾町長〕 今、議員は北海道の美瑛町の話がされました。このような話がやはり有田町自体に提案があったり、先ほどの「ありったけのうれしいを」みたいなおっきな広域圏で観光流通通貨としてどうかというような提案もたくさんあっているのは事実です。果たしてこれどれがいいのかというのはまだいろいろ協議もしなくてはいけないかなと思いますが、一つ例を上げますと3年前に実施した陶器市の時にペイペイさんが一生懸命努力されて本当に普及もしました。3年ぶり

に改めてやりましたが、なんで有田陶器市はなんでこんなにペイペイさんがあるんだろうと不思議がられるお客様まだおられました。というぐらいやはりプレイヤーもいろんな各位が努力をしなくちゃこの電子化というのは難しいんだなというのは実感としてありますが、もう今DX化ということで世の中動き出しています。議員ご指摘のとおりやはり高齢化の方もおられますので、デジタルデバイトではないですけど、デジタルに弱い方をどうやって拾い上げていくかというのも一つの課題であります。ご提案のようにクーポンチケットの手配りみたいなのところもあるかもしれませんが、そこもちょっといろいろコスト面とかいろいろありますので、そういったところも含めてしっかりと担当課と観光協会とまた実際される商店街のみなさんとかと意見交換も含めて、どういった形が有田町らしいのかというのをしっかりと研究協議していきたいと思っております。

〔7番 手塚英樹君〕 こういうのをどこかでやっぱり変えないといけないと思います。それでマイナンバーカードなどの利用もこの中に当然入っていくだろうというふうに思いますし、一長一短ですぐできるとは思いませんが、将来は必ずこういう形のもので世の中が動いていくなど。実はこの陶器市の時は自分のお店の話をするとなんですけども、本当ペイペイが多かったです。1,000円以下はペイペイというような感じで、2,000円から3,000円まではペイペイ、3万とか5万とかになるとカードという形で本当ペイペイの決済がこんなに多いものかというぐらいい大変多うございました。時代はまさに変わりつつあって、ここのところを足踏みするのではなくて一歩ずつ前に進みながらなんとかこの時代に沿った、しかもお客様たちが決済しやすい形もこれも一つのサービスだというふうに思いますので、是非ともこの辺りも落ち着いて、そして確実にやっていけたらいいなというふうに思っておりますので、是非ともチケットの方は急いで頂きまして、こっちもデジタル化の方もゆっくりとですけども確実に進めて頂きたいなというふうに思っております。よろしく願いいたします。続きまして、3番目になりますけれども、観光資源の再開発ということで、これも6月に、昨年6月に天狗谷窯跡の再整備計画はありませんかというお話をさせて頂きました。その時に答弁が、まずは、ここの検討委員会を作ることがまず先になりますというお話でありました。私たちは本当に先程の内山グランドデザインの話ではありませんけれども、眠っている資源の中でとっても大事な本当に原石としてのダイヤモンドがここにあるわけです。これをなんとか輝かせて誘客につなげ、また文化としての場所として是非ともこれを見れる、そこで楽しんで頂ける場所をつくる、まずは検討委員会の方を作って頂きたいと思うんですけども、町長いかがでございますでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕文化財課長。

〔山口文化財課長〕町長に質問だったですけど、ちょっと先に言わせて頂きます。この天狗谷窯はですね、平成21年までの約10年間にわたって国庫補助事業により整備を行って現在の姿になったという経緯があります。整備委員会の再発足はというお尋ねですが、町では一昨年の10月に今まで出ました有田内山グランドデザイン検討委員会を発足させ検討を重ねてきております。その結果、既に本年3月に公表をしており重点施策の一つとして、内山地区歴史と文化を生かした産業観光による集客の推進が掲げられております。今後この計画に沿って各種の事業を推し進めていく予定ですが、具体的なことについては今後十分に住民の方々のご意見伺いながら実現していくこととなります。よって、その計画の推進の中で天狗谷窯跡の再整備が必要という強い要望が上がれば整備検討委員会の再発足も考える必要が出てくるものと思います。このため、ここで検討委員会の再発足は差し控えさせていただきます。従いまして、まずは今後グランドデザインの事業を推し進める中でその可否については検討してまいりたいと思います。以上です。

〔7番 手塚英樹君〕町長、今の補足はございませんか。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今、担当課長が申したような流れが通常というか、答弁となりますが。やはり今、何回もお話しているように観光面ということで言えば仰るように天狗谷というのは大きなキーワードだと思うし、札ノ辻からの白川のアプローチというのは改めて再発見の価値はあると思います。そういう中でどういった上手い方法があるかというのは検討していかなくちゃいけません。あそこも国のいろんな流れもありますので、今ここで全く切ってしまうのはもったいないと私も思っておりますが、そこにまた莫大な財政負担もかかるかもしれませんのでそこは上手にしながらもやはり天狗谷窯跡というのは私も個人的に非常に大事なポジションだと思いますので、ほかの議員からもご提案あったような文化観光推進法なりを生かしながらとか、文化庁にいろいろご相談しながらこういった形での展開があるのか、観光庁に相談しながらどんな形があるのかというのは十分検討していける場所だと思っております。だから焼き物を買うだけじゃなくて歴史を愛でる方も本当に最近多く来られているなというのも実感しておりますので、そういったアプローチの仕方で文化的な観光というところの一つの大きな目玉になる窯跡だと思っております。いかんせんちょっと財源がなかなか厳しい中で、いかに面白く皆さんに低価格で提供できるかなというところも研究しながら是非協議を、検討委員会というのは難しいかも、今はすぐには難しいかもしれませんが、グランドデザインの中でやっぱり作らなくちゃいけないなという機運が盛り

上がれば、それは実行に移していかに観光に繋げていくところにするかというところを協議していきたいと思います。

〔7番 手塚英樹君〕私の地元の方では大変盛り上がっております、是非ともやっていきたいというのは、もうそのとおりなんでありませうけれども。今現在、九州陶磁文化館がリニューアルされて大変素敵な展示になっております、私もたまたま見学に行った時に、前の方にいた若い女性なんかは部屋を変わるごとにキャーという歓声が上がっております。ああいうふうは何て言うんですかね、物を見て驚いて感動してというのは有田の中にはたくさんまだまだあると思いますし、そういうものを作っていないといけないというふうに思っております。とにかくこの観光におきましては多くのお客様が有田に来て頂く、そのためには感動するモノ・コト、それが有田の町内にたくさんあって、そしてそこに住んでいる一番大切なのは人々のおもてなしだというふうに思っております。この辺りが十分に回っていくと観光客の誘客、それからリピーターの獲得、そういうのができてくると思います。まずは行政の皆様方に町内にたくさんのお客様が入って頂ける施策をぜひともよろしく願いいたしまして、私の一般質問を終わらせて頂きます。ありがとうございました。

〔今泉藤一郎議長〕7番議員 手塚英樹君の一般質問が終わりました。10分間休憩いたします、再開14時15分といたします。

【休憩14：06】

【再開14：15】

〔今泉藤一郎議長〕再開いたします。8番議員 福島日人士君。

〔8番 福島日人士君〕8番議員 福島日人士、議長の通告の許可を頂きましたので、通告に従い一般質問をしたいと、お願いしたいと思います。私の質問の項目は3つあります。1つ目が、ヤングケアラーについて。2項目目に、スクールバスの運行について。3番目が、唐船城公園の環境整備についてお伺いしたいと思います。よろしく願いいたします。まず1つ目のヤングケアラーについての質問ですけれども、ヤングケアラーの背景には少子高齢化や核家族化、貧困等の要因があります。この辺のところをお聞きしたいと思っております。まず皆さんもご存じかも分かりませんが、現在まだそのヤングケアラーという言葉自体が子どもたちにも教育関係の方にも浸透はしていません。それで、その背景には少子高齢化や核家族化、それと貧困があります。2

020年頃からヤングケアラーについて、政府や各自治体における取り組みが急速に広がっております。その中でまた18歳未満のヤングケアラーだけでなく全世代のケアラー支援条例が全国の都道府県市町で制定されおります。有田町ではどのように認識されていますでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕子育て支援課長。

〔川原子育て支援課長〕ヤングケアラーについては、議員が仰るとおり、2年ほど前から社会問題として取り上げられるようになりました。ケアラーとは主に介護者のことであり、家族や身近な人に対して無償で介護や看護など日常生活上のお世話をを行う方々を指します。その中でも18歳未満の若者の介護者をヤングケアラーと呼ばれています。現在のところ有田町で相談が寄せられている中でヤングケアラーの方はいない状況です。また、ケアラー支援条例は介護者が個人として尊重され、健康で文化的な生活を営むことができるよう社会全体で支えることを目的とし、令和2年3月に全国で初めて制定、現在は9つの県または市町において制定をされています。有田町においては同様の条例はないものの、今年3月に策定をいたしました有田町地域福祉計画の中で地域共生社会を推進し、安心して子育てのできる町づくりを目指し、支え合う地域福祉を推進しているところです。

〔8番 福島日人士君〕それとまた2021年5月に厚生労働省と文部科学省の共同によりヤングケアラーの支援に向けた福祉・医療・介護・教育の連携プロジェクトチームが結成されたということが報告されております。その中で政府の中学・高校生への実態調査によると、ケアをしている家族がいると回答したのは、中学2年生が5.7%、17人に1人、全日制高校生2年生が4.1%で24人に1人、学校の各クラスに最低1人はいるんじゃないかということです。このように厚生労働省と文部科学省の調査によって判明しております。それでお尋ねしたいのですが、県内の状況を分かる範囲でお聞かせください。また町内の状況も併せてよろしくお願いします。

〔今泉藤一郎議長〕子育て支援課長。

〔川原子育て支援課長〕県内の状況については、まだ県の方からこういったものの連絡はあっておりませんので把握はしていません。有田町においては各機関と連携をしながら把握に努めておりますけれども、現在このヤングケアラーとしての問題というのは相談は受けていない状況です。家庭の事情や環境によってヤングケアラーが担っている役割は様々で、また幼いころから日常的に家族のケアやサポートをしていたり、成長するにつれてその担うものが大きくなって責任が大きくなっていく場合もあり、多くのヤングケアラーにとって家族のケアは当たり前のこととして

受け入れられていると考えております。その中で本人がヤングケアラーだという自覚がなく一人で負担を抱えてしまいやすくなると考えております。町としては第一に気づくことが第一だと考えており、今後も相談体制等努めてまいりたいと考えております。

〔8番 福島日人士君〕 よろしくお願ひいたします。このように自分では介護をしているという認識というか、家族のためにやっているという感覚でありますのでケアという感覚は全然ないのですね、それで世間に知れ渡るというか、こういう認識度が全体的にまだまだ不足していると思います。続きまして、ヤングケアラー支援の取り組みについてお伺ひしたいと思います。先程の政府の実態調査によれば、ほぼ毎日ケアをしているが3割から6割で、1日のケアの時間は平均4時間、また3時間未満という人も1割から2割存在しております。その中で7時間以上というケアラーをしている人が1～2割も存在しているということです。誰かに相談したことがない人のアンケートの回答は、誰かに相談するほどの悩みではない。相談しても状況は変わるとは思えないという答えが多数で。ヤングケアラー経験者は無意識に最初からあきらめ、自覚がなく、現状を受け入れてしまう、目の前の家族の世話に追われて自分のやりたいことを考えにくくなっている。すなわちSOSを発信し、助けを求めるという発想、状況が変わりうるのだという前向きな考えを持ちにくいということです。そのために学校や地域・福祉・親族等の周囲の大人たちが問題に気づき、ヤングケアラーが支援に繋げるようなサポートをしていくことが大切だということです。この辺のことをお尋ねしたいんですけども。

〔今泉藤一郎議長〕 子育て支援課長。

〔川原子育て支援課長〕 ヤングケアラーが抱える課題は、その家庭、その子どもさんにより様々だと考えます。まずはその子どもの悩みに気づくことが第一歩であり、そのため学校や教育委員会・地域・関係機関と連携しながら、それぞれの子どもやそれぞれの家庭に寄り添った支援を行っていく必要があると考えています。町では、広報等での啓発活動や民生児童委員会での研修等を実施しながら社会的認知度を高めていくことが必要であり、地域や学校、行政などの関係機関が連携し、地域全体で見守る体制を整えていくことが必要と考えております。

〔8番 福島日人士君〕 そうということが非常に大切だということです。それで教育長にお伺ひしたいんですけども、ヤングケアラーには将来に向け、教育上、進路の影響に伴い、人格形成や対人関係への影響も非常に大きいので早い時期からの支援、関係機関との連携、学校教育現場への支援、その中でスクールソーシャルワーカーの配置や学習支援など取り組みが必要だと思ひますが、その辺のお尋ねをしたいんですけどもいかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 学校教育課長。

〔福山学校教育課長〕 ちょっと私の方からお答えをさせて頂きたいと思います。このヤングケアラーに関する問題点は先ほどから議員の方から仰ってらっしゃるとおり、中学生で5.7%、高校生で4.1%が世話をしている家族がいると回答をされておまして、ただ、この子どもたちがですね、この問題がなかなか家族の問題ということで表面化しにくいという問題を指摘をされました。こういった点から学校でも、おいては学校現場でそういったところが分かりやすい現場ではございますので、学校で分かった場合は各関係機関に繋いでいくというふうなことになるかというふうに思います。ただ、そういった子どもたちが勉強する時間が取れない、学校に行けない、欠席がやはりどうしても多くなっていく、ひいては孤立につながって学力が低下していくというふうなところがございますので、そういったところは各関係機関で協力し合いながら進めていくことが必要かなというふうに思っております。

〔8番 福島日人士君〕 ありがとうございます。そのようになかなかそういう状況が見えないですね、子どもたちの態度とか、そういうふうな家庭の状況が見えないので、なかなかそういう子どもが学校に来ているということがなかなか見えないので、その辺はさっき言われていた教育現場への支援でスクールソーシャルワーカーの配置やそういう学習支援などの取り組みが非常に大事じゃないかなとそう思います。どうぞよろしく願いいたします。続きまして、2項目目のスクールバスの運行についてお伺いいたします。登校距離が長い地域の、遠いといいますか、地区の、遠い地区の子ども、小学生児童のスクールバスの運行ができないかということですが、この辺の遠い地区はですね朝6時起床で6時半家を出発します。そういうところが地域にありますので、その辺のスクールバスの運行ができないかということで、これ質問をしているんですけども。この辺の状況を、スクールバスの運行については学校のどういうふうにしていらっしゃるんですか。

〔今泉藤一郎議長〕 教育長。

〔栗山教育長〕 お答えいたします。遠距離通学ということで、小学校では、小学生では大体4キロ以上、中学生では6キロ以上というふうな大体の目安があるようです。4キロ以上超えている小学生とかは路線バスとかそういうので来るときには補助金を出すとか、そういう制度もございます。有田町内では現在のところそこまでの距離の子どもさんはいないというふうに把握をしております。いろんな地区で今学校の統廃合とかが進んでいる中で、伊万里なんかもスクールバスを出したり、あるいは玄海町あるいは多久市とか近隣ではそういったところがスクールバスの運行等を

しておりますが、そこはやっぱり統合して一部分のところは非常に遠くなっているというふうなところがあると思いますので、そこはそうせざるを得ないという事情があると思います。議員さんが仰られるように朝早くから起きて重たい荷物を持って歩いてきている子どももいるというふうな話は防犯ボランティアの会議等でも聞いたりはあるわけですが、一応、その目安の4キロ、6キロというふうなところでは現在いないということですので、スクールバスの運行をというふうなお話ではございますが、現在のところその予定はないというふうに結論づけておるところでございます。

〔8番 福島日人士君〕それでお聞きしたいんですけども、黒牟田のタウンQ辺りの児童がコミュニティバスで通っているというそういう話を住民の方が、保護者達辺りが聞いているんですよね。その辺の対応ができるのならそういう対応ができないかなと思ってお尋ねしたいんですけども。

〔今泉藤一郎議長〕教育長。

〔栗山教育長〕タウンQにつきましては、あそこに入居をされる時にそういう約束を、路線バスを使って登校してもいいという約束があったように聞いておりますので、そこはそういうふうに入られる時に保護者の方が理解をして路線バスを使っていると、コミュニティバスを使っていると、そういう事情があると思います。

〔8番 福島日人士君〕それで町長にお伺いしたいんですけども、あそこの例えば楠木原地区ですけども、その地区辺りは佐世保市との、佐世保市横手町との有田町の接続線ですか、あの辺が近年中に開通ができるんじゃないかな、そういう状況に今ある程度の佐世保市との連携協定でできてくるんじゃないかなと思いますけども、そういう接続ができれば佐世保からの今、車というか、伊万里あたりに通勤されている車辺りも今もどんどん来ております。そういうふうな佐世保市との距離がやっぱり、有田町との距離が近くなるし、その辺の開発することによって、また住民も定住とか移住する人たちもできてくるんじゃないかと思うんですけども、その辺の先を見据えた対策というのはどのように思われますか。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今、議員ご提案のお話しですけども、やはり佐世保と有田は西九州都市圏という圏域内での会の勉強会等は行っておりますが、そのテーブルに今お話になったような話はまだ乗れてないというところだと思います。楠木原の手前まではできてますので、後その先はいろいろ以前からも質問あっておりますので、その先はやはり佐世保市さん側のお話だと思いますので、現況がちょっと私も把握できていないので、あれですけども、やはりその道路がつながることによって

メリットはあると思いますが、そこに先ほどの問題、前段の方たちのお話しでもあったように、そこに住宅団地を建てるとか、いろんな施策も必要だと思いますので、今ある環境の中で何ができるかというのをちょっと研究してみたいと思います。

〔8番 福島日人士君〕先ほど15番議員さんが仰いましたですけども、過疎債の補助金の活用といますか、そういうふうな補助金の活用できないんですかね。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕過疎債は旧有田地区で使うのが過疎債です。指定区域がございますので。今仰られている区間だと合併特例債というのが使われると思いますけども、今その辺もありますのでちょっといろいろ考えていきたいと思います。

〔8番 福島日人士君〕スクールバスの補助といますか、その辺は過疎債ではできないんですかね。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕過疎債につきましては、先程町長が申しましたとおり、過疎計画に基づいて使用できるものとなりますので。過疎計画に関しては、旧有田町の方、東地区の方のみになりますので、例えば楠木原地区の方に使用するというわけにはいかないという形になります。

〔8番 福島日人士君〕過疎っていうたら、有田町全体をいう、そういうふうな考えじゃないんですか。

〔今泉藤一郎議長〕まちづくり課長。

〔吉永まちづくり課長〕昨年度、過疎地域に指定された分に関しては一部過疎ということで、旧有田町の方になります。

〔8番 福島日人士君〕内山地区ということですか。それは分かりましたけど、その辺の補助の在り方といますか、その辺を上手く県との話し合いできないんでしょうかね。それは早急と、本当は早急にして頂きたいんですけども、なるべく早めにそういう対策を考えてほしいと思います。それでは次にいきたいと思います。3番目、唐船城公園の環境整備についてお伺いいたします。この唐船城、歴史ある唐船城築城800年公園の観光化また小中学生の教育の場としての活用、親子で楽しんだり町民が普段に訪れ、健康や体力作りなど楽しめるような環境整備ができないでしょうか。それと今セラミックロードが開通しましたね。その登り口のところにも駐車場が、きれいな駐車場ができております。広く、本当にすぐに山に登れるような状況です。それでその辺の対応をお願いしたいんですけども。

〔今泉藤一郎議長〕建設課長。

[岩崎建設課長] お答えします。現在ですね、唐船城公園は都市公園として管理しているのは、計画面積5.9haとなります。施設の、管理施設にはですね、駐車場、芝生広場、運動広場、運動広場の中にはバックネット、日よけ、遊戯広場、遊戯広場の中にはブランコ、ジャングルジム、複合遊具、ベンチ、砂場、藤棚、公衆トイレがあります。また、唐船城の山頂の方には展望所もございます。展望所への遊歩道は幅1.5mから2mの幅で1号線から4号線まで、総延長といたしまして1,347.1mの遊歩道が整備されております。遊歩道ですね急こう配のところには階段工が施行されており、整備も整っていると考えております。また、先ほど議員が仰られました県道伊万里有田線からのアクセスですね、駐車場を整備しておりますのでそこからのアクセスも伊万里土木事務所の方よりコンクリートで取り付けをされて楽に歩けるような形にはなっております。また、展望所からの眺望もですね支障をきたすような雑木は現在ありませんので伊万里の方まできれいに見えるような状況にはなっております。ただ、少しですね、議員ご指摘なっておりますように、落ち葉が堆積したりとか、雑木がちょっと歩道に被ってきたりとか、そうしているところもありますので、そういうところの伐採とか歩道の堆積物の清掃ですね、そういうのはしていきたいと思っております。

[8番 福島日人士君] その辺の環境整備もですよ、私も何回か展望台のあそこのろし台までには何回か登りました。だから子どもたちが登れるような環境ではないです。だからその辺の立木とか、登山道、山谷牧地区からのあそこの今新しくできたセラミックロードの方からの登山口があります。昔の人たちはそこから展望台辺りまでは登れるようにされていたそうです。私たちも小学校頃は遠足で唐船城のところまで毎年楽しみに来ておりました。そういうあそこは唐船城は本当に良いところです。環境を良くして、観光としてもこういう町づくりを是非して頂きたいと思えます。町長の町政の目標の中でも幸せのまちづくりということでもありますので、町長この辺を生かした町政の在り方をお願いしたいと思います。

[今泉藤一郎議長] 町長。

[松尾町長] 議員ご提案の、唐船城公園の観光化に向けてということですが、あそこは観光化というところの方がぐっとするかというよりは、私は町民の方の憩いの場というか、シャクナゲのお祭りとかいろんなことがありますので、そういったところで皆さんにどんどん認知度を上げてもらって、ここは昔こういうだったんだというのは、800年祭の頃のお話もありますので、そういった歴史を訪ねたり、憩いの場であったりということがまず初めであって、そこに人がどんどん集まってきて観光化に向けて、例えば竜門ダムから黒髪山に登った帰りにちょっと寄って

みようかとか、あそこに名物があるから見てみようかというような形はあると思います。今ご指摘のところを改善しながら緩やかに観光化に向けた施策をとっていければなと思っております。

[8番 福島日人士君] そうですね、課長も仰いましたですけども、やっぱり子どもたちが普段いつでも安全に登れるような環境づくりを今後やって頂きたいと思います。教育の場としても本当に利用がある唐船城でありますので、ぜひ今後の課題をよろしく願いいたします。ありがとうございました。これで一般質問を終わります。

[今泉藤一郎議長] 8番議員 福島日人士君の一般質問が終わりました。以上で本日の日程は全て終了いたしました。本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

【散会 14 : 43】